

令和4年度男女共同参画推進市民意識調査報告

○ 実施概要

対象：18歳以上80歳未満の市民を対象に、性別、年代ごとに住民基本台帳登録者数の2%を無作為抽出

対象者数：1,600人

回答方法：郵送またはWEBフォームによる回答

実施期間：令和5年2月8日～2月24日

回答者数：546人

回答率：34.1%（前年度比3.7ポイント↓）

※1 各項目で使用した全国の数値は、令和3年11月に実施した、「男女共同参画に関する世論調査」（内閣府）を参照した。

※2 各設問における回答割合の計は、端数処理又は複数回答の影響で100%にならないことがある。

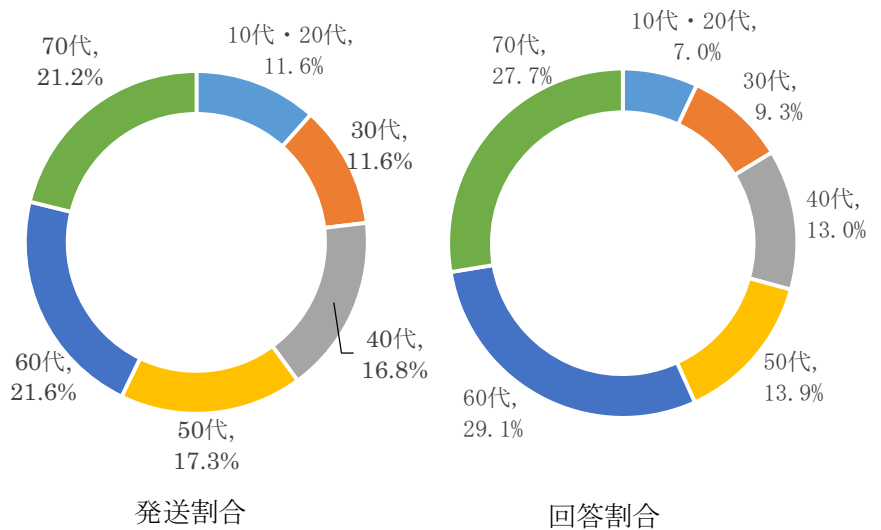
○ 対象者数、回答数、回答率

年齢区分	対象者数				回答数					回答率
	男	女	合計	割合	男	女	答えたくない	合計	割合	
10代・20代	99	87	186	11.6%	16	21	1	38	7.0%	20.4%
30代	97	88	185	11.6%	18	33		51	9.3%	27.6%
40代	140	128	268	16.8%	26	44	1	71	13.0%	26.5%
50代	140	136	276	17.3%	30	46		76	13.9%	27.5%
60代	174	172	346	21.6%	67	91	1	159	29.1%	46.0%
70代	165	174	339	21.2%	70	81		151	27.7%	44.5%
全体	815	785	1,600		227	316	3	546		34.1%

○ 回答率は、各年代で女性の方が高く、また、年代が上がるにつれて上昇しています。

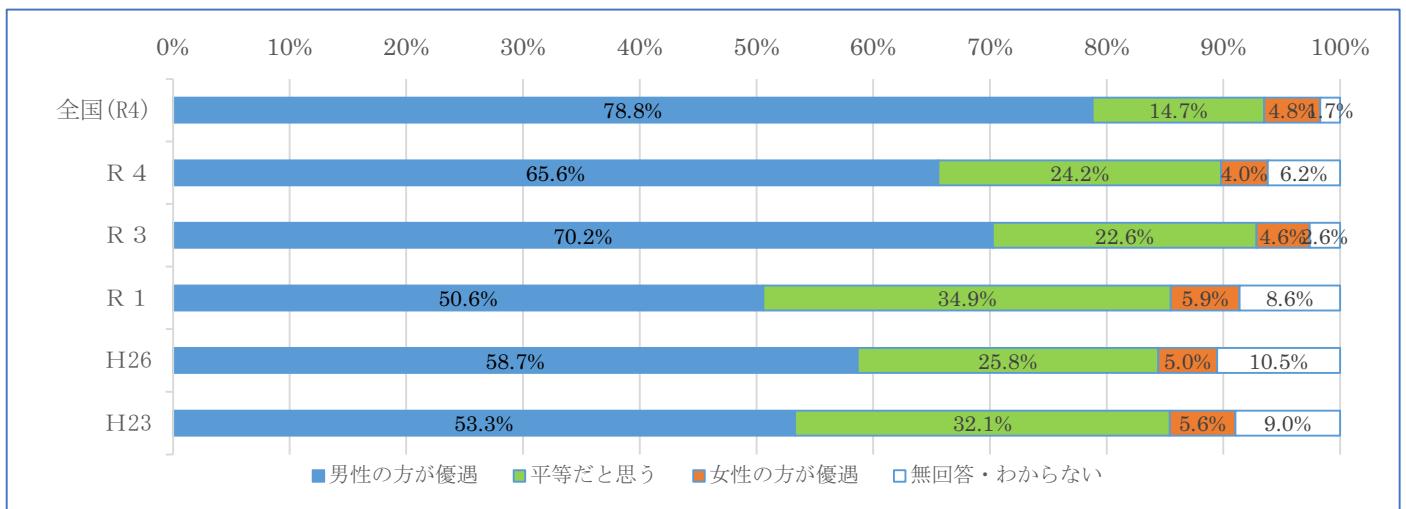
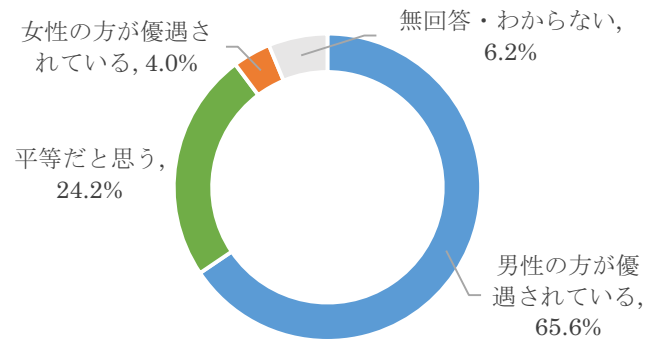
○ 特に10代・20代女性の回答率が他の区分に比べて低調でした。

○ 回答者数は、60代と70代が、全体の56.8%を占めています。

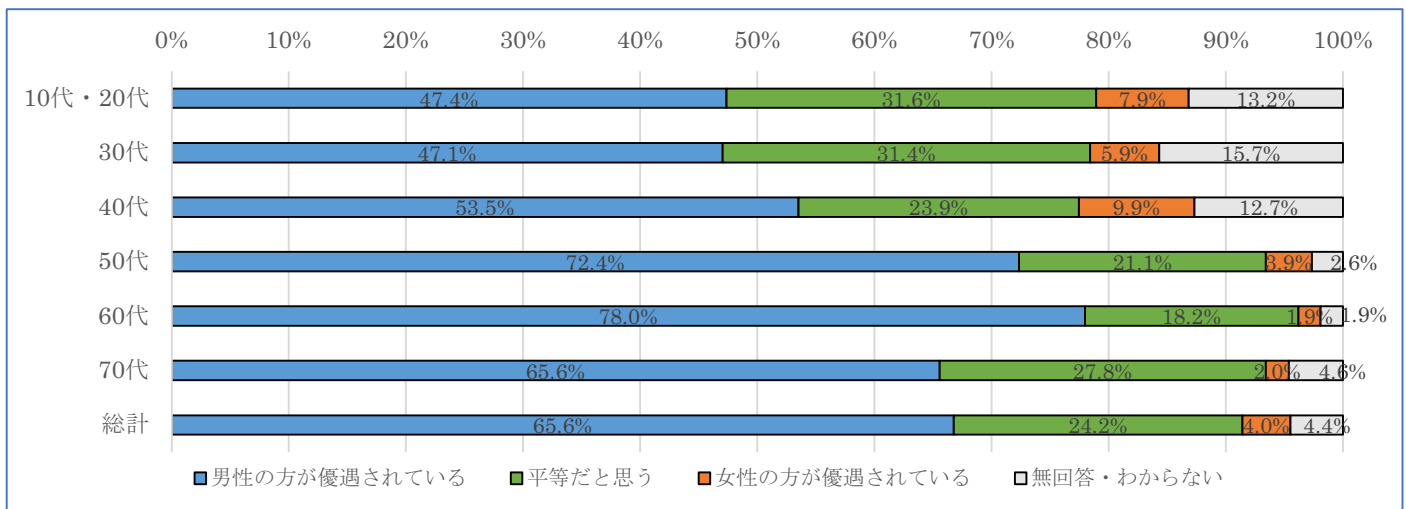


設問 1 あなたは社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか。（1つ選択）

	総計	割合
男性の方が優遇されている	358	65.6%
平等だと思う	132	24.2%
女性の方が優遇されている	22	4.0%
無回答・わからない	34	6.2%
全体	546	100%



○ 年代による比較



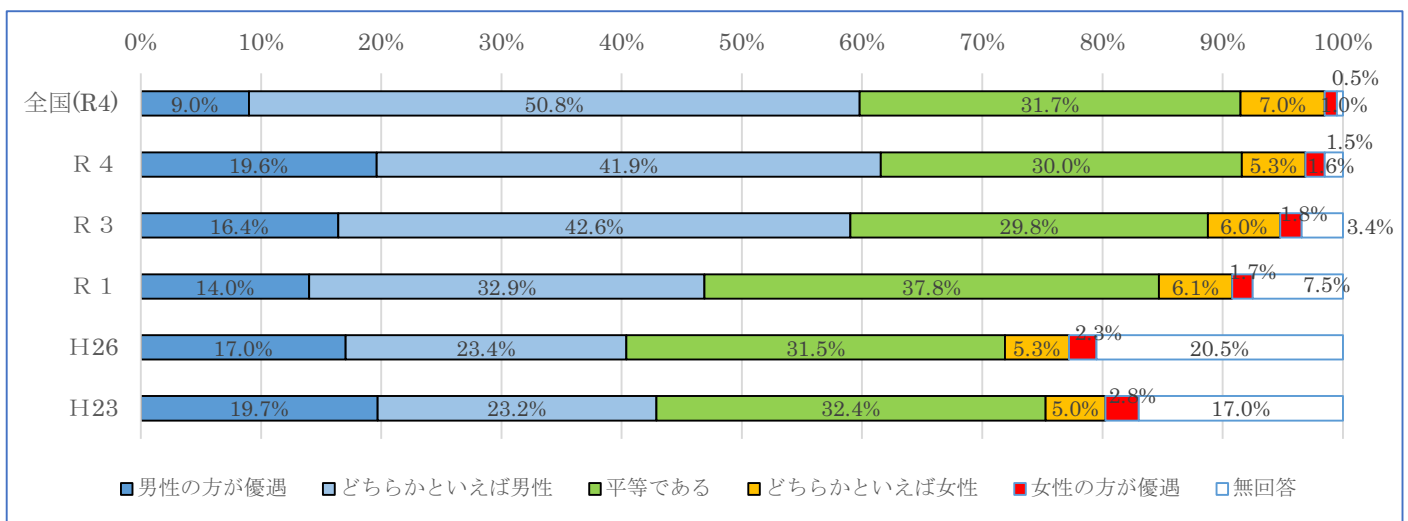
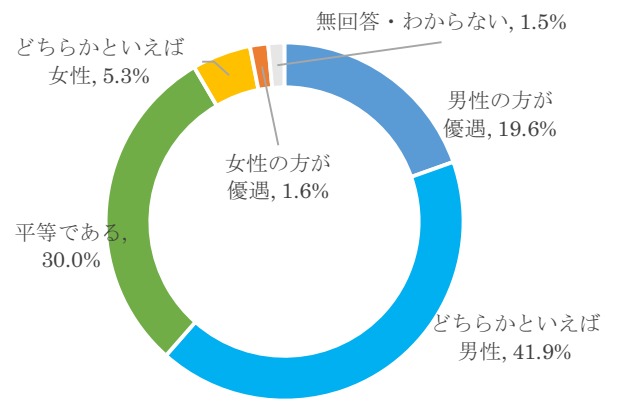
○ 全体では、「平等だと思う」の割合が24.2%と、全国調査を9.5ポイント上回り、令和3年度に実施した前回調査（以下、「前回調査」という。）からも微増となっています。

○ 年代別では、「平等である」の割合が最も高い10代・20代で31.6%、最も低い60代で18.2%と、13.4ポイントもの開きがあります。

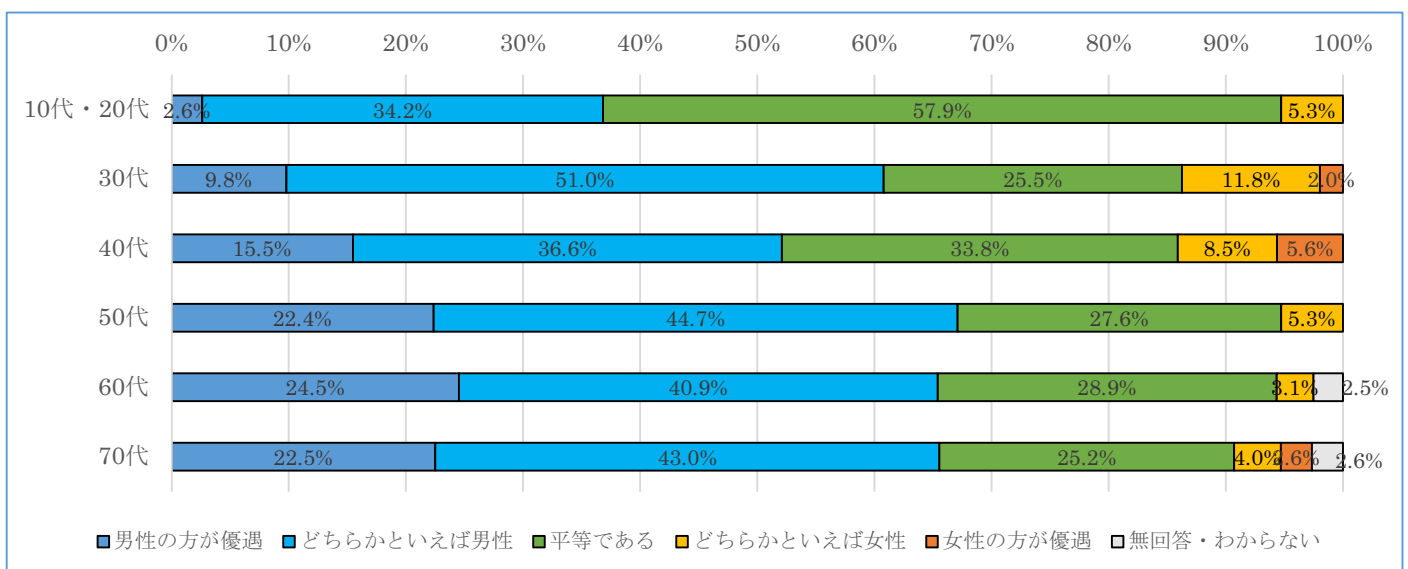
設問 2 次にあげる各場面において、あなたの身の回りでは男女平等になっていると思いますか。
(1つ選択)

① 家庭生活

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	107	19.6%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	229	41.9%
平等である	164	30.0%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	29	5.3%
女性の方が優遇されている	9	1.6%
無回答・わからない	8	1.5%
合計	546	100%



○ 年代による比較

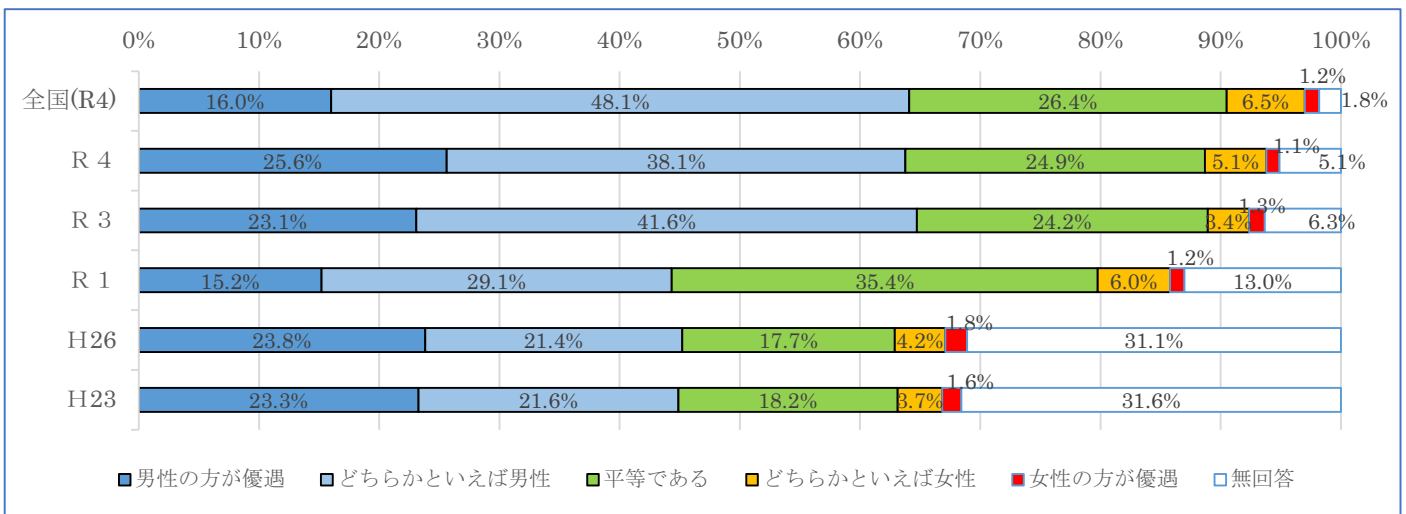
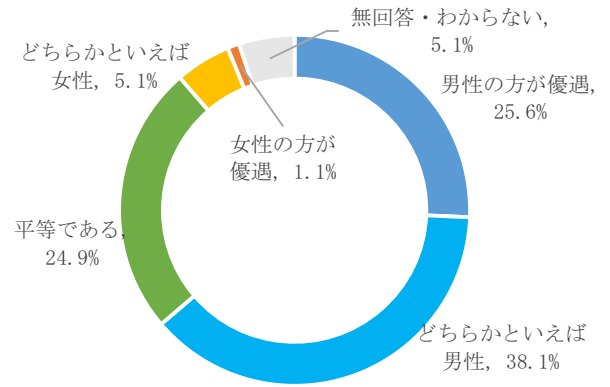


- 全体では、「平等である」の割合が30.0%と、前回調査から0.2ポイント増加していますが、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が、6割を超えています。
- 年代別では、「平等である」の割合は、10代・20代が57.9%で最大、70代が25.2%で最小となっており、10代・20代が70代の約2倍となっています。

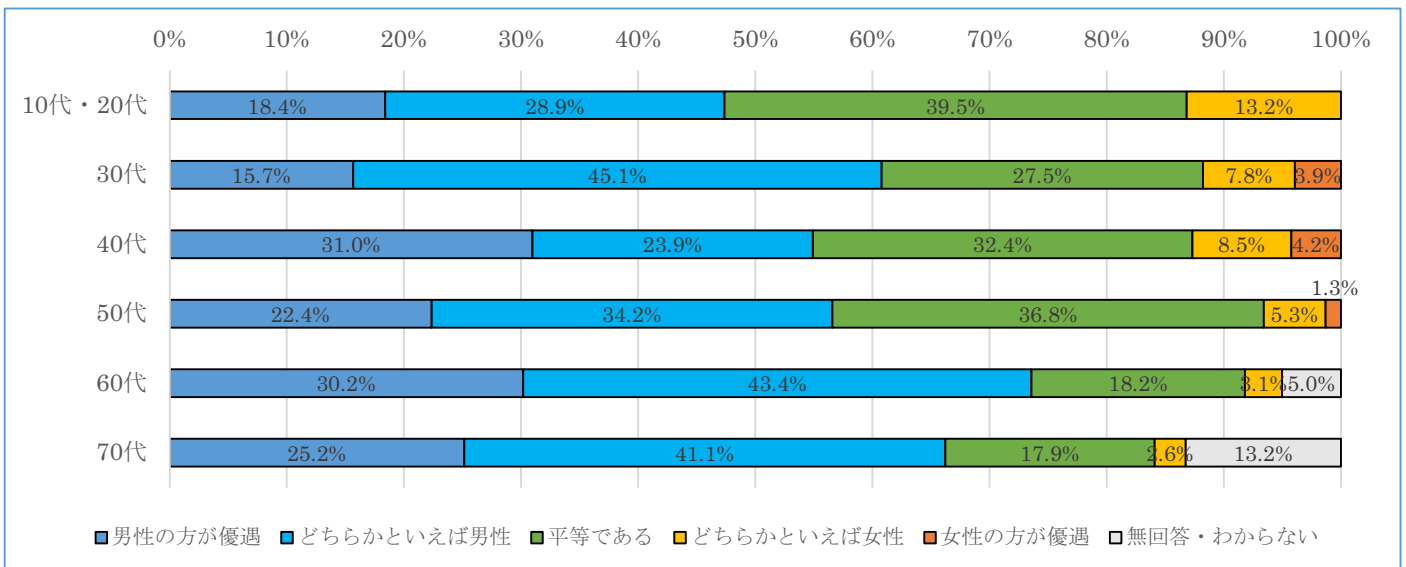
設問 2

② 職場

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	140	25.6%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	208	38.1%
平等である	136	24.9%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	28	5.1%
女性の方が優遇されている	6	1.1%
無回答	28	5.1%
合計	546	100%



○ 年代による比較

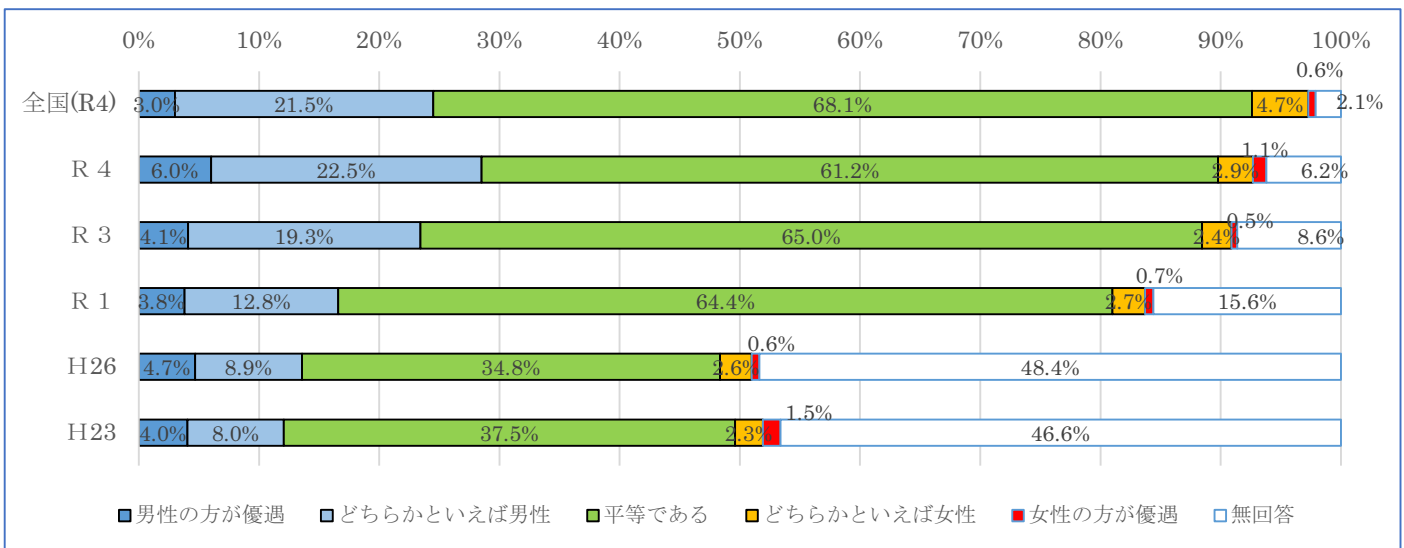
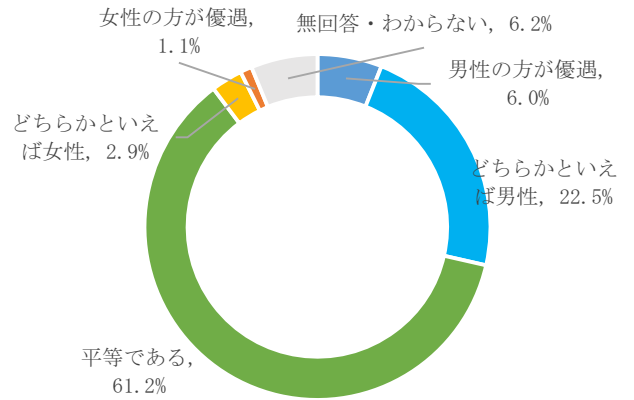


- 全体では、「平等である」の割合が 24.9%と、前回調査から 0.7 ポイント増加しましたが、全国調査の 26.4%を下回っています。
- 年代別では、「平等である」の割合は、10代・20代が 39.5%で最大、70代が 17.9%で最小となっており、10代・20代が 70代の約 2 倍となっています。

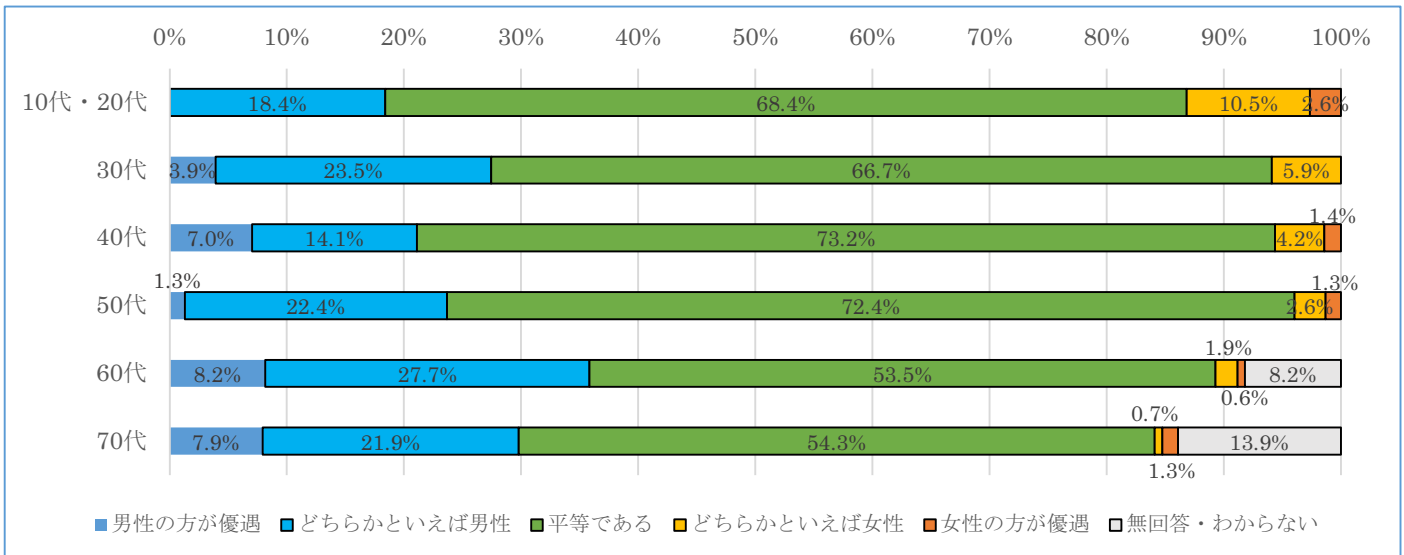
設問 2

③ 学校教育の場

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	33	6.0%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	123	22.5%
平等である	334	61.2%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	16	2.9%
女性の方が優遇されている	6	1.1%
無回答	34	6.2%
合計	546	100%



○ 年代による比較



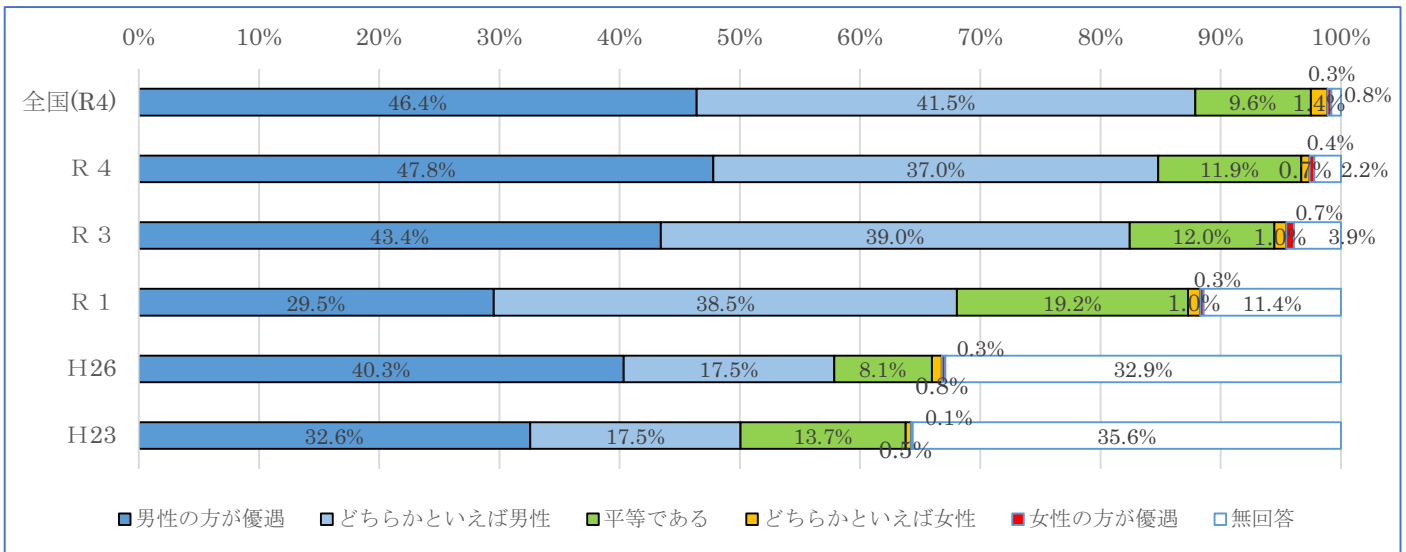
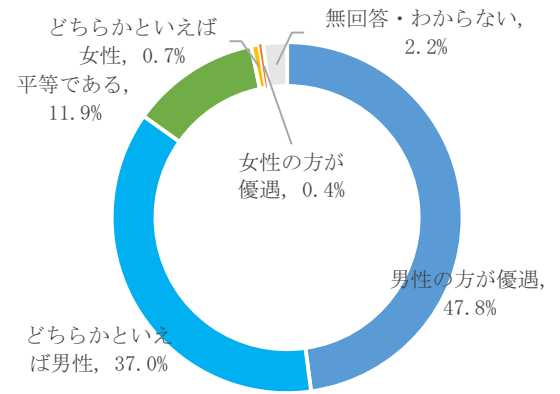
○ 全体では、「平等である」の割合が61.2%と、全国調査を6.9ポイント下回り、前回調査からも3.8ポイント減少しています。

○ 年代別では、全年代において「平等である」の割合が最も高くなっています。

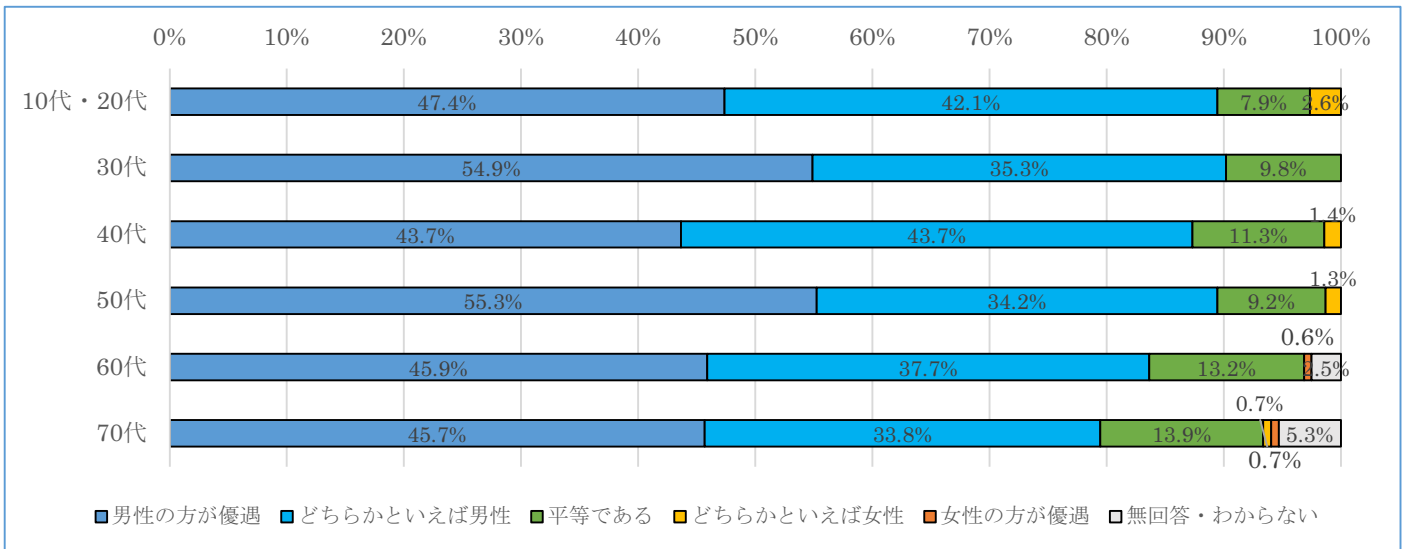
設問 2

④ 政治の場

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	261	47.8%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	202	37.0%
平等である	65	11.9%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4	0.7%
女性の方が優遇されている	2	0.4%
無回答	12	2.2%
合計	546	100%



○ 年代による比較



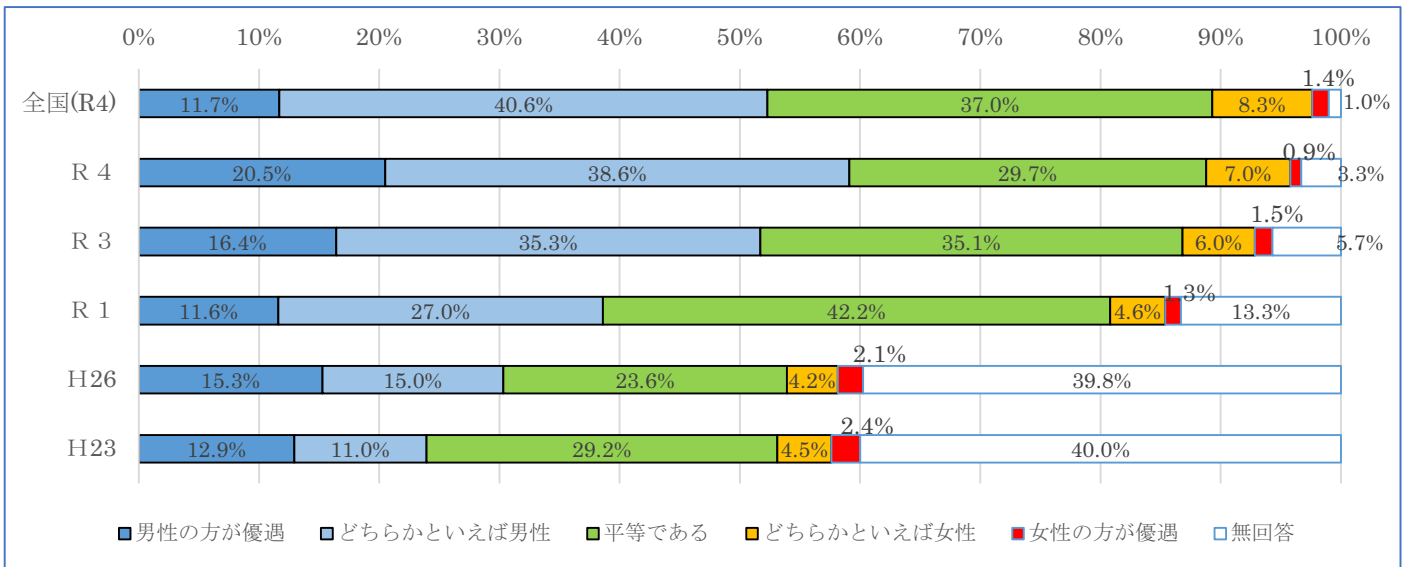
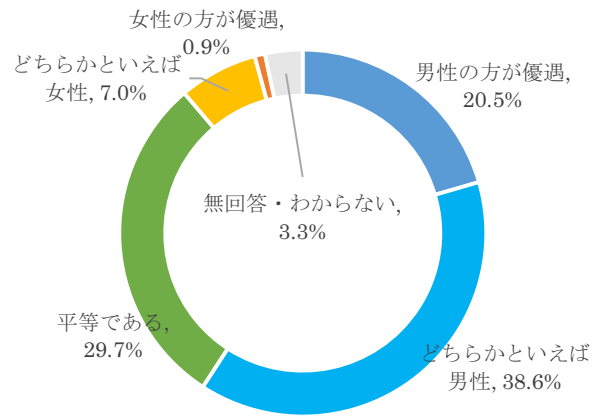
○ 全体では、「平等である」の割合が 11.9%と前回調査からほぼ変わらず、「男性の方が優遇されている」及び「どちらかというとも男性の方が優遇されている」の割合が、8割を超えています。

○ 年代別に見ても、全年代において「男性の方が優遇されている」及び「どちらかというとも男性の方が優遇されている」の割合が、合わせて8割を超えています。

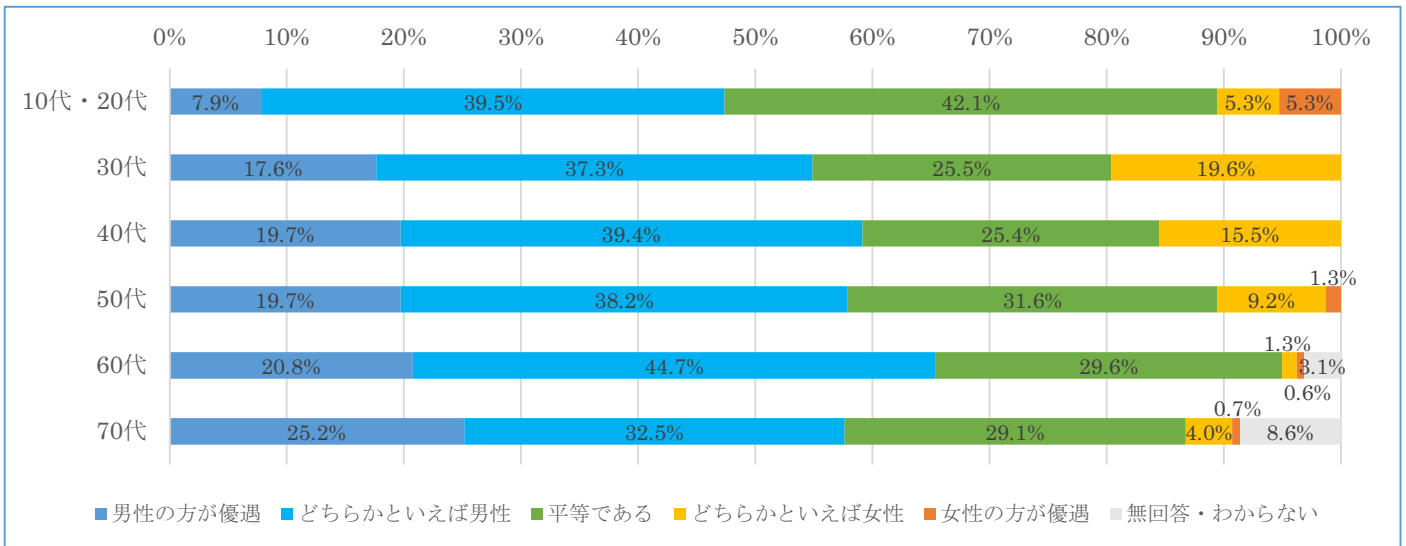
設問 2

⑤ 法律や制度上

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	112	20.5%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	211	38.6%
平等である	162	29.7%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	38	7.0%
女性の方が優遇されている	5	0.9%
無回答	18	3.3%
合計	546	100%



○ 年代による比較



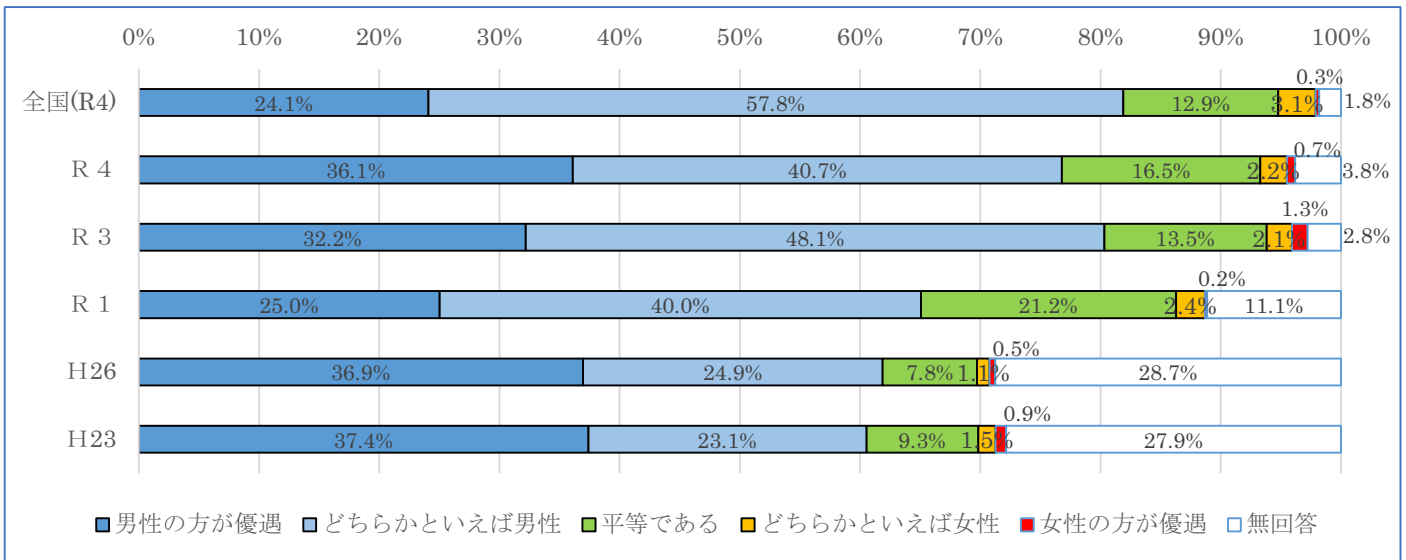
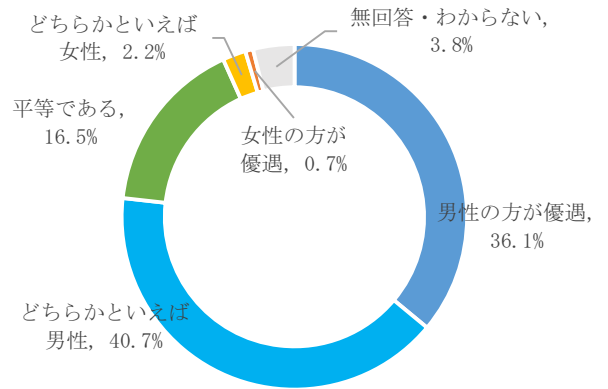
○ 全体では、「平等である」の割合が 29.7%と前回調査から 5.4 ポイント減少し、「男性の方が優遇されている」及び「どちらかというとも男性の方が優遇されている」の割合が、5割を超えています。

○ 年代別では、「平等である」の割合が、最も高い 10 代・20 代で 42.1%、最も低い 40 代で 25.4%と 16.7 ポイントの開きがあります。

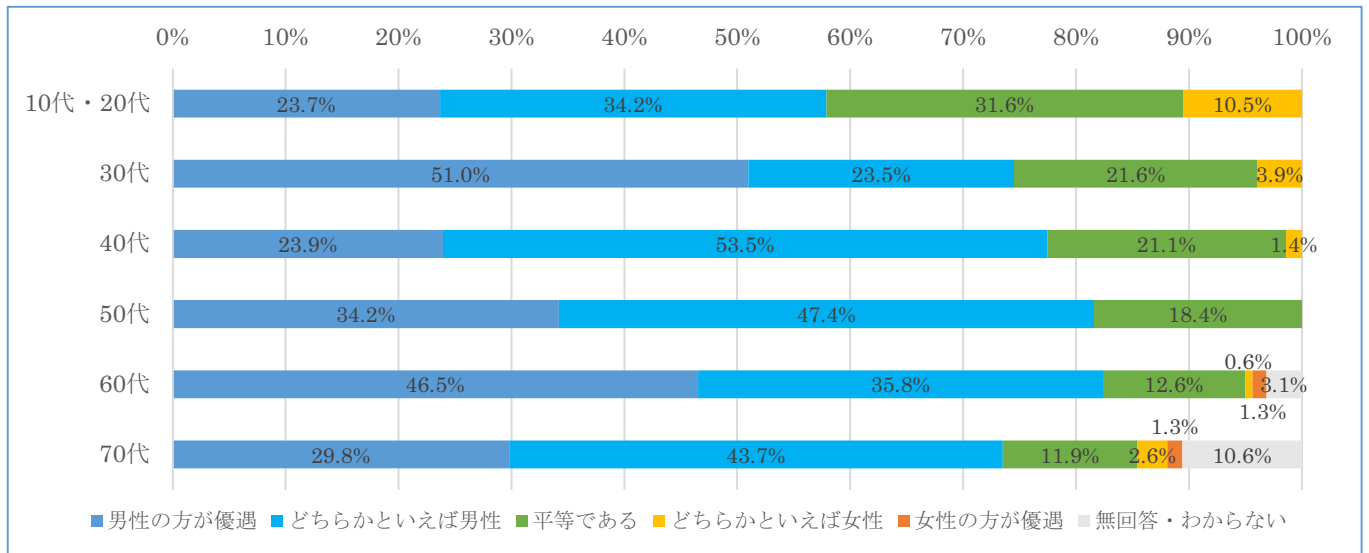
設問 2

⑥ 社会通念、習慣、しきたり

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	197	36.1%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	222	40.7%
平等である	90	16.5%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	12	2.2%
女性の方が優遇されている	4	0.7%
無回答	21	3.8%
合計	546	100%



○ 年代による比較



○ 全体では、「平等である」の割合が16.5%と、全国調査を3.6ポイント上回り、前回調査からも3.0ポイント増加しています。

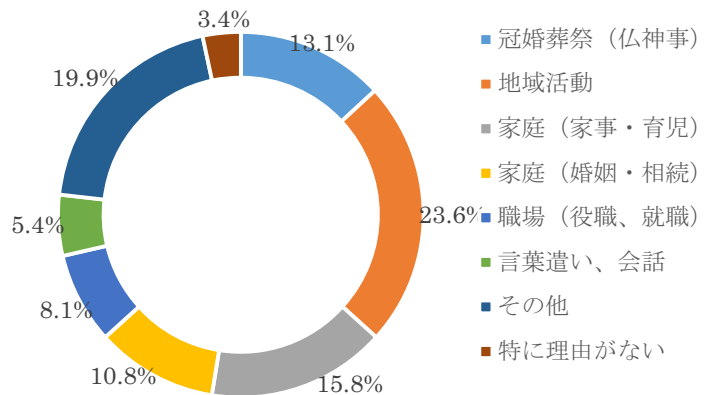
○ 年代別では、「平等である」の割合は、10代・20代で最大となり31.6%、年代が上がるにつれて割合が減少し、60代で12.6%、70代で11.9%と、10代・20代の2分の1以下となっています。

⑥a 社会通念、習慣、しきたりの詳細

設問2⑥で、「社会通念、習慣、しきたり」について、男女平等となっているかの問いに対し、その解答に至った具体的な場面を記載してもらった。その場面を、以下の項目に分類し、集計した。

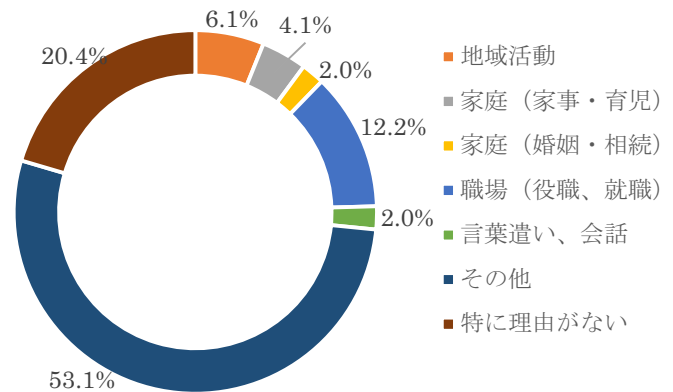
○ 男性の方が優遇されている、どちらかといえば男性の方が優遇されている（回答総数 297 件）

項目	回答数	割合
冠婚葬祭（仏神事）	39	13.1%
地域活動	70	23.6%
家庭（家事・育児）	47	15.8%
家庭（婚姻・相続）	32	10.8%
職場（役職、就職）	24	8.1%
言葉遣い、会話	16	5.4%
その他	59	19.9%
特に理由がない	10	3.4%



○ 平等である（回答総数 49 件）

項目	回答数	割合
地域活動	3	6.1%
家庭（家事・育児）	2	4.1%
家庭（婚姻・相続）	1	2.0%
職場（役職、就職）	6	12.2%
言葉遣い、会話	1	2.0%
その他	26	53.1%
特に理由がない	10	20.4%



○ 女性の方が優遇されている、どちらかといえば女性の方が優遇されている（回答総数 12 件）

項目	回答数	割合
冠婚葬祭	1	8.3%
家庭（家事・育児）	3	25.0%
言葉遣い、会話	3	25.0%
その他	5	41.7%

❖ その他の主な回答

- ・ 名簿や呼名、性別欄は男性が先になっていることが多い。（男性が優遇されている）
- ・ 上座に座るのはだいたい男性（男性が優遇されている）
- ・ 公職についている人の顔ぶれを見ればわかる（男性が優遇されている）
- ・ 不平等を感じたことがない。（平等である）
- ・ 男性が優位だったり女性が優位だったり場面、場面で異なる（平等である）
- ・ なんとなくそう感じる（どちらかといえば男性が優遇されている、平等である）

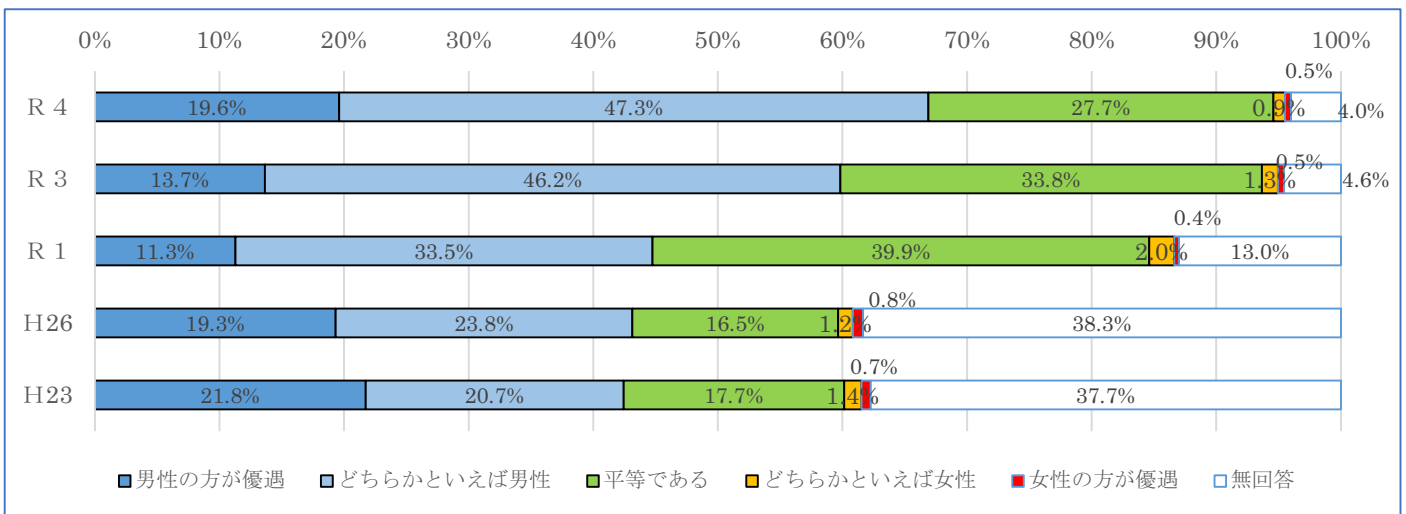
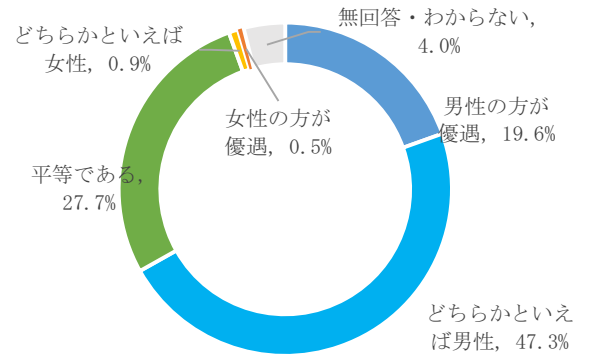
○ 「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と回答した人は、地域活動や家庭、冠婚葬祭など、具体的な場面を挙げた方が多かった。

○ 「平等である」と回答した人は、多角的な視点や様々な場面から、また、なんとなく、特に理由がないなど特定の場面を挙げない人が多くみられた。

設問 2

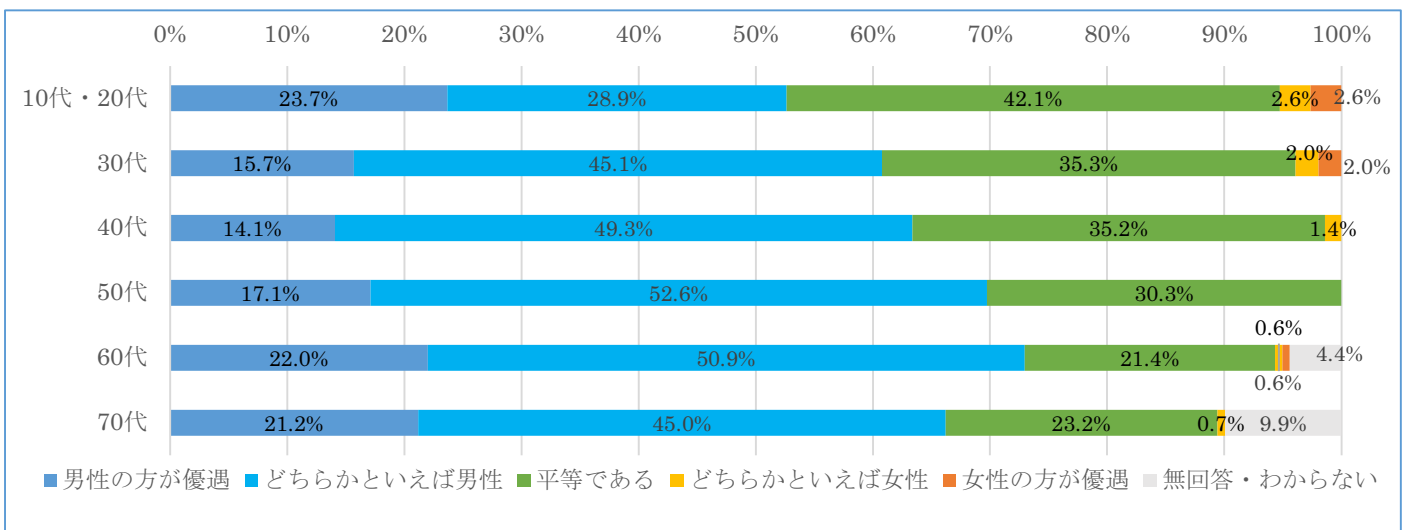
⑦ 就職

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	107	19.6%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	258	47.3%
平等である	151	27.7%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	5	0.9%
女性の方が優遇されている	3	0.5%
無回答	22	4.0%
合計	546	100%



※ 全国値データなし

○ 年代による比較



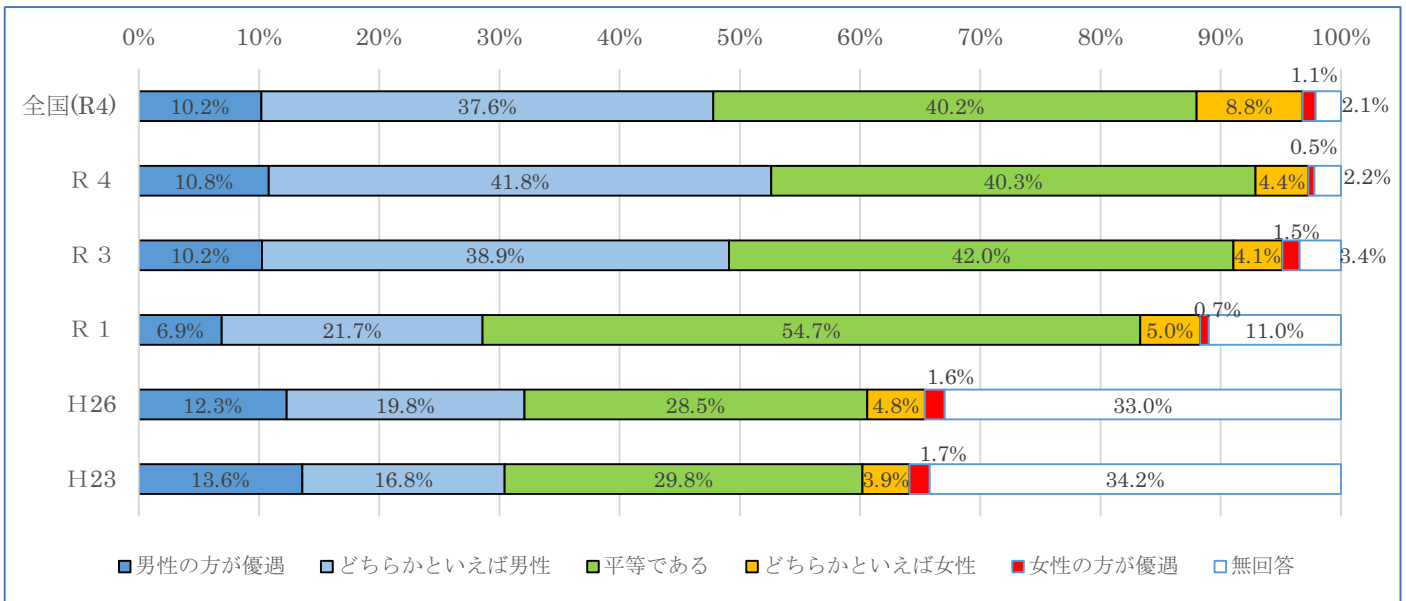
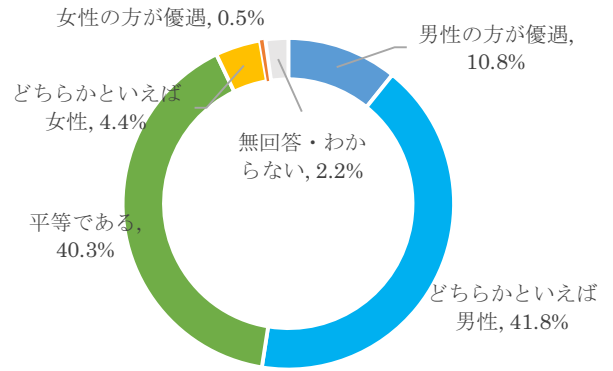
○ 全体では、「平等である」の割合が 27.7%と、前回調査から 6.1 ポイント減少し、「男性の方が優遇されている」及び「どちらかというと男性の方が優遇されている」の割合が、6割を超えています。

○ 年代別では、「平等である」の割合は、10代・20代で最大となり 42.1%、年代が上がるにつれて割合が減少し、60代で 21.4%、70代で 23.2%となっています。

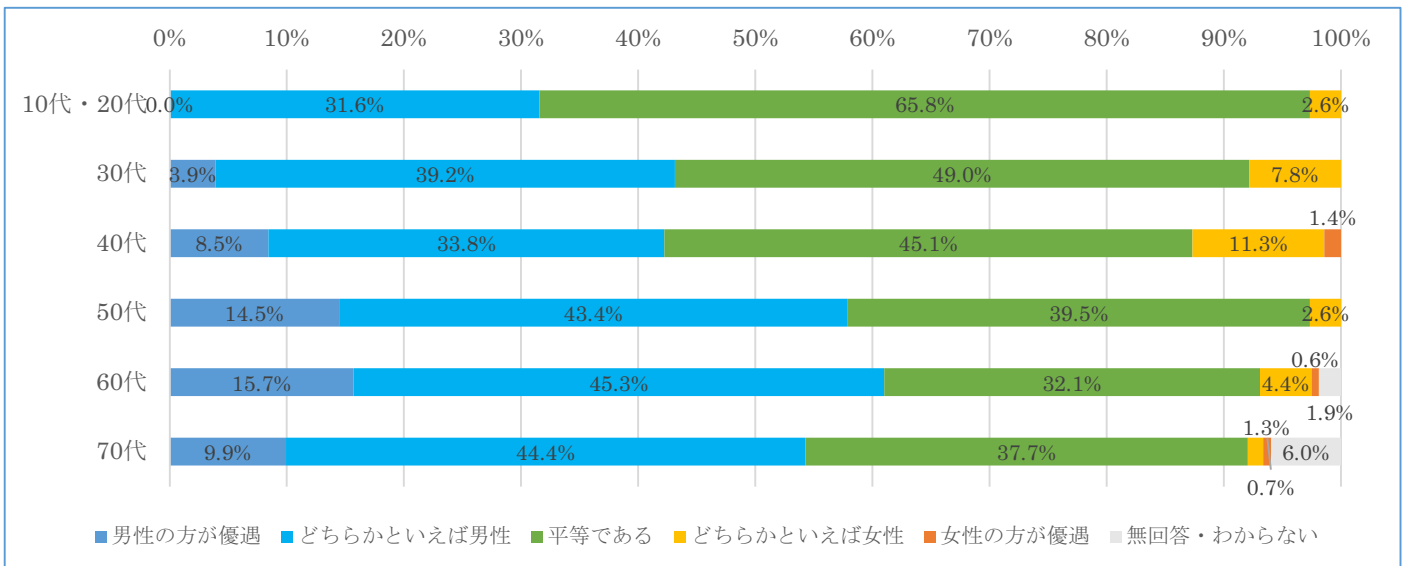
設問 2

⑧ 地域活動

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	59	10.8%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	228	41.8%
平等である	220	40.3%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	24	4.4%
女性の方が優遇されている	3	0.5%
無回答	12	2.2%
合計	546	100%



○ 年代による比較

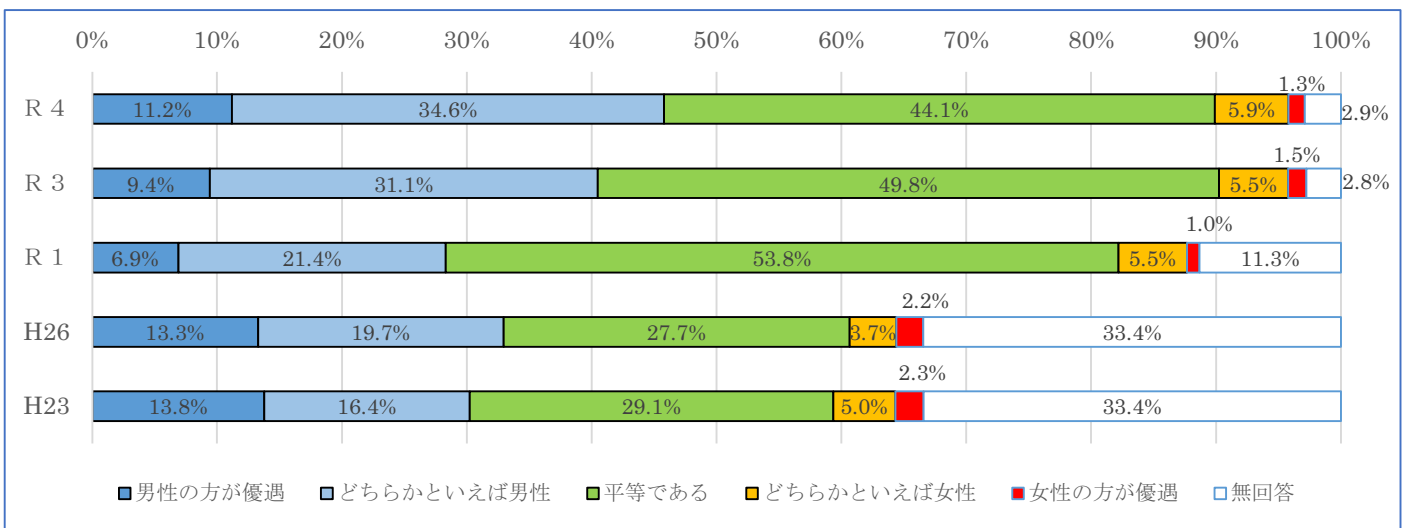
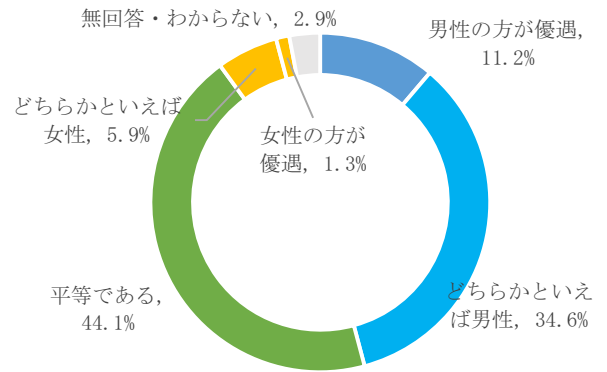


- 全体では、「平等である」の割合が 40.3%と、前回調査から 1.7 ポイント減少しています。
- 年代別では、「平等である」の割合は、10代・20代で最大となり 65.8%、年代が上がるにつれて割合が減少し、60代で 32.1%、70代で 37.7%と、10代・20代の約 2分の1 となっています。

設問 2

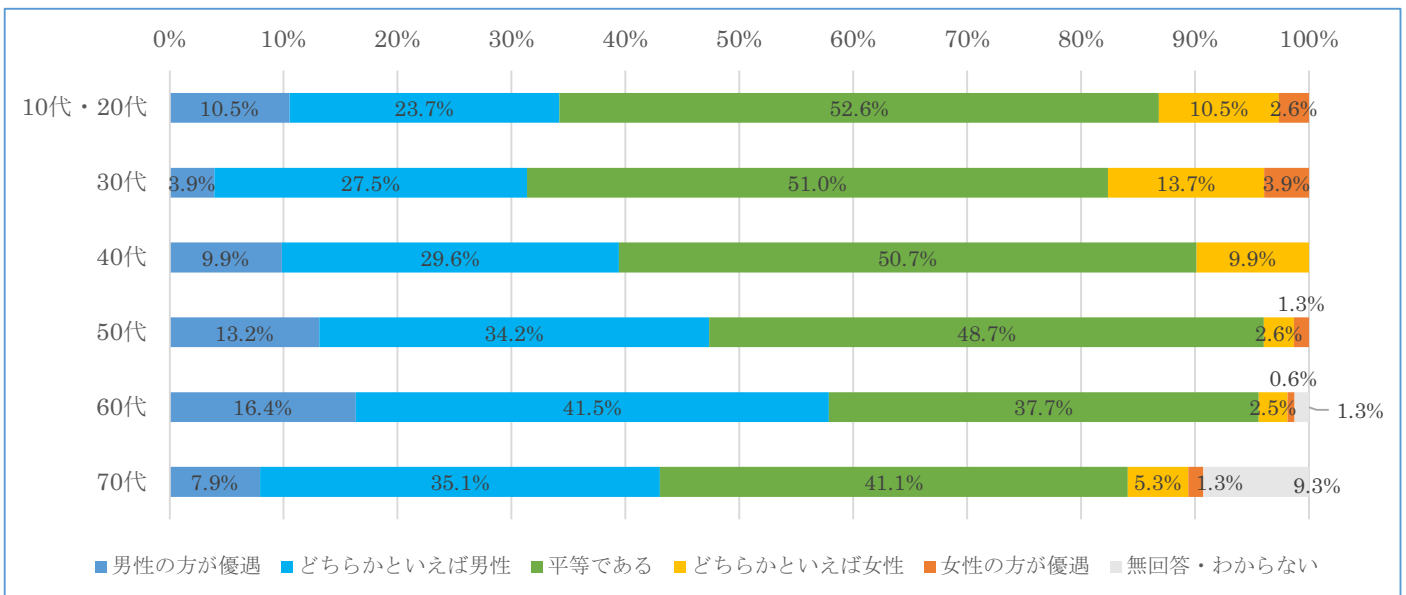
⑨ 言語や会話

項目	回答数	割合
男性の方が優遇されている	61	11.2%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	189	34.6%
平等である	241	44.1%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	32	5.9%
女性の方が優遇されている	7	1.3%
無回答	16	2.9%
合計	546	100%



※ 全国値データなし

○ 年代による比較



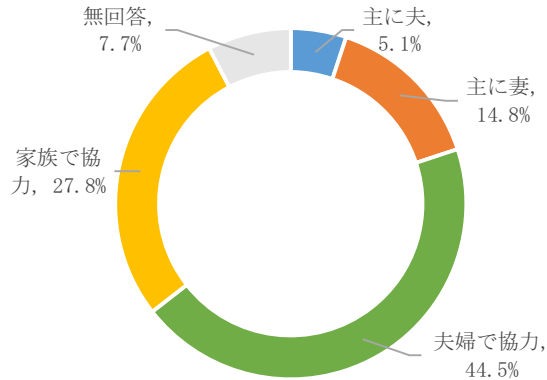
○ 全体では、「平等である」の割合が44.1%で最も高くなっていますが、前回調査からは5.7ポイント減少しています。

○ 年代別では、「平等である」の割合が、10代・20代が最大となり52.6%、年代が上がるにつれて割合が減少し、60代では最小の37.7%となっています。

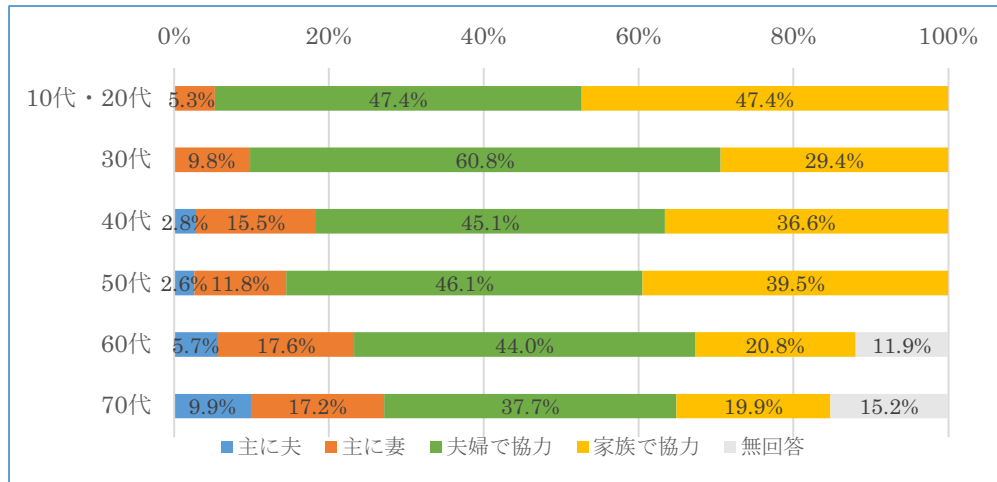
設問 3 家庭での役割分担の理想についてうかがいます。次の項目の家事などの分担はどのような形が望ましいと思いますか。(1つ選択)

① 家計全体のやりくり

項目	回答数
主に夫	28
主に妻	81
夫婦で協力し合う	243
家族で協力し合う	152
無回答	42
合計	546



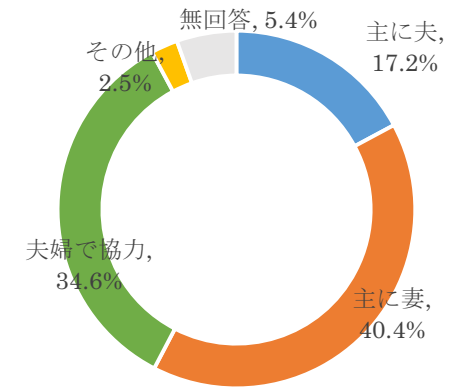
○ 年代による比較



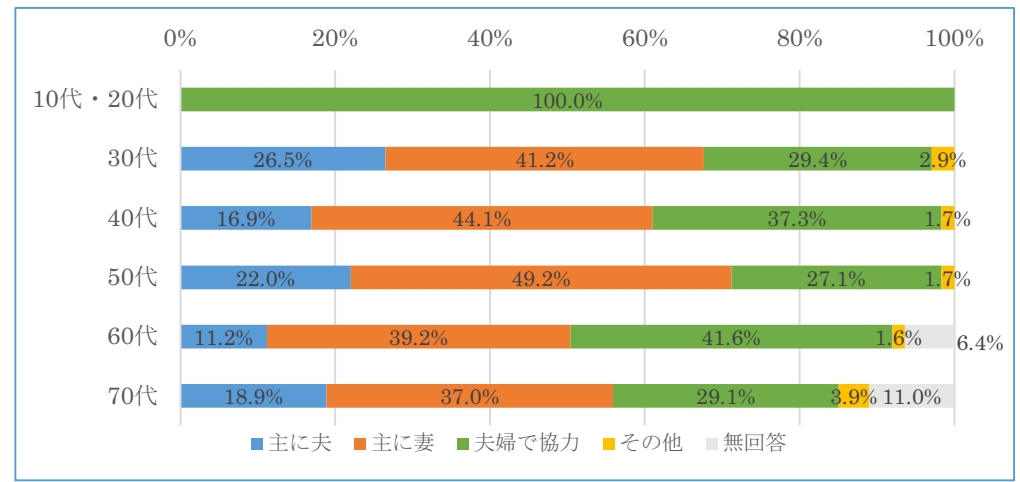
設問 4 【既婚者のみ】家庭での役割分担の現状についてうかがいます。あなたの家庭では次の項目の家事などを主に誰が行っていますか。(1つ選択)

① 家計全体のやりくり

項目	回答数
主に夫	70
主に妻	165
夫婦で協力し合う	141
その他(必要が無い、他の家族がやっているなど)	10
無回答	22
合計	408



○ 年代による比較



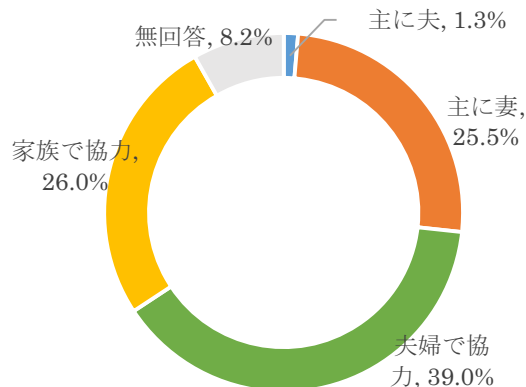
○ 『①家計全体のやりくり』について、設問3（家事分担の理想）では、「夫婦で協力」の割合が最も高く44.5%、設問4（実際の家事分担）では、「主に妻」の割合が高く40.4%となっています。

○ 「主に妻」について、設問3（家事分担の理想）では14.8%ですが、設問4（実際の家事分担）では40.4%と大きな隔たりがあります。

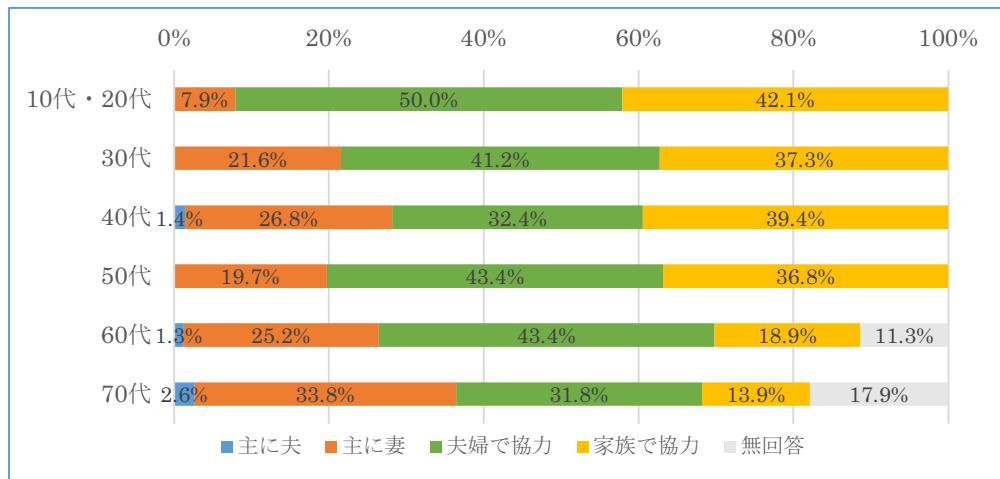
設問3

② 日常の買い物

項目	回答数
主に夫	7
主に妻	139
夫婦で協力し合う	213
家族で協力し合う	142
無回答	45
合計	546



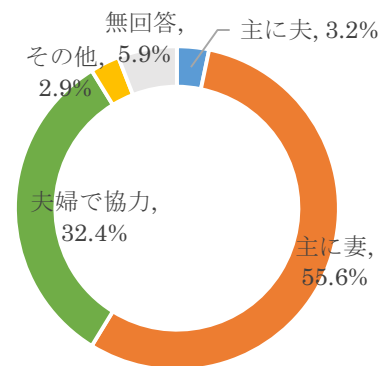
○ 年代による比較



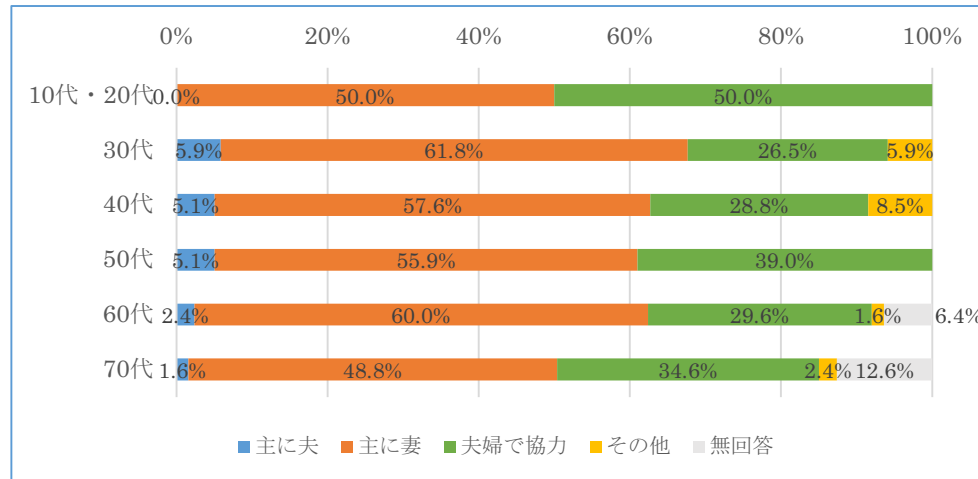
設問4

② 日常の買い物

項目	回答数
主に夫	13
主に妻	227
夫婦で協力し合う	132
その他 (必要な、他の家族がやっているなど)	12
無回答	24
合計	408



○ 年代による比較



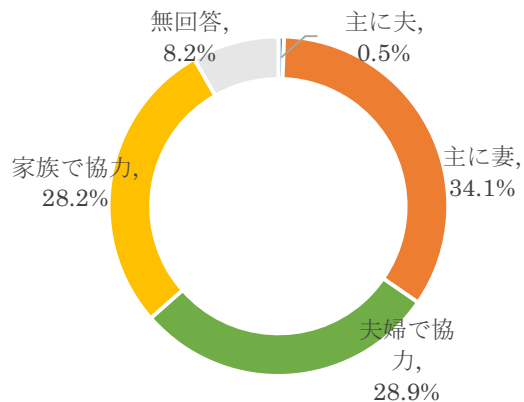
○ 『②日常の買い物』について、設問3（家事分担の理想）では、「夫婦で協力」の割合が最も高く39.0%、設問4（実際の家事分担）では、「主に妻」の割合が高く55.6%となっています。

○ 「主に妻」については、設問3（家事分担の理想）では25.5%ですが、設問4（実際の家事分担）では55.6%と約2倍となります。

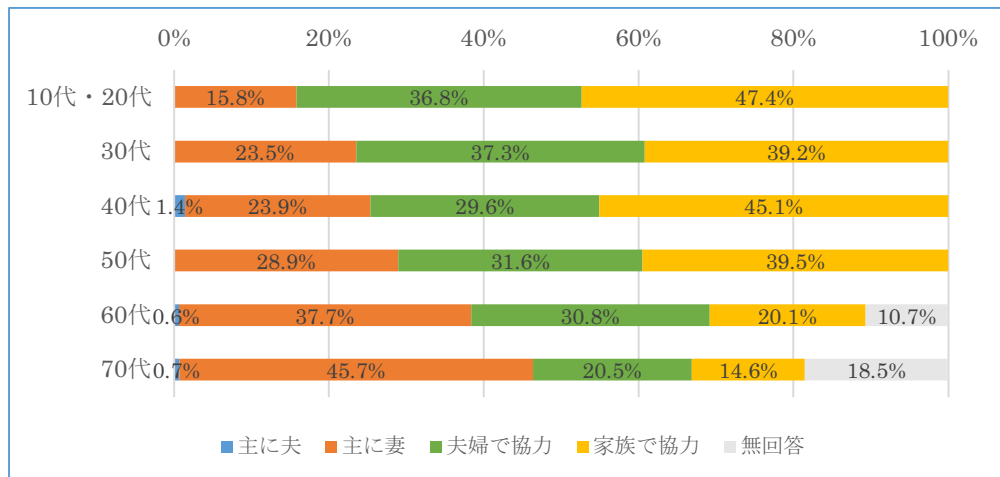
設問3

③ 食事の支度

項目	回答数
主に夫	3
主に妻	186
夫婦で協力し合う	158
家族で協力し合う	154
無回答	45
合計	546



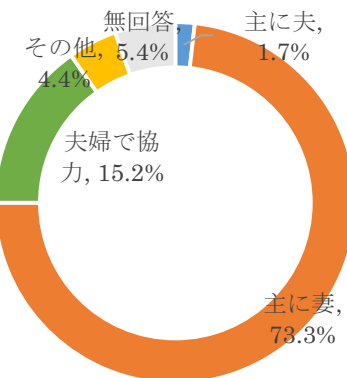
○ 年代による比較



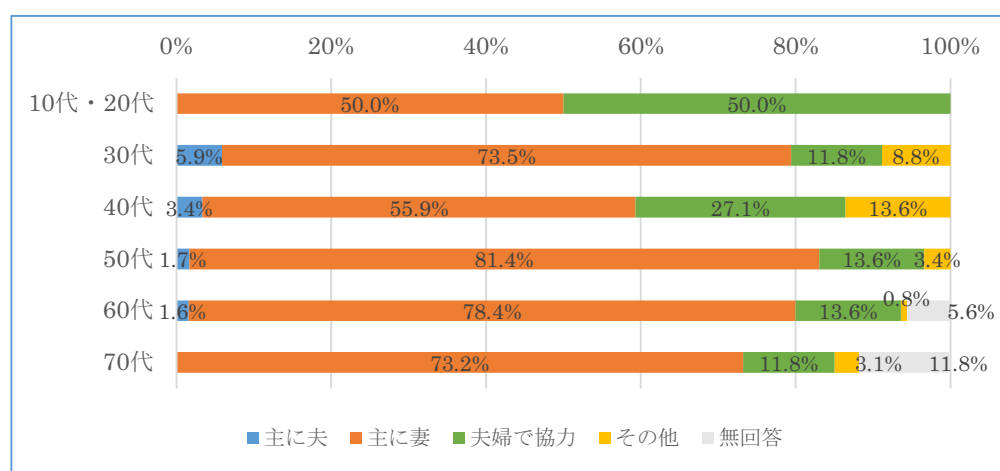
設問4

③ 食事の支度

項目	回答数
主に夫	7
主に妻	299
夫婦で協力し合う	62
その他 (必要が無い、他の家族がやっているなど)	18
無回答	22
合計	408



○ 年代による比較

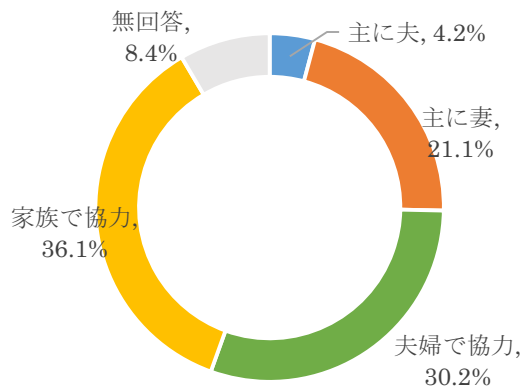


- 『③食事の支度』について、設問3（家事分担の理想）では、「主に妻」「夫婦で協力」「家族で協力」の項目が概ね3分の1ずつを占めていますが、設問4（実際の家事分担）では、「主に妻」が約7割を占めています。
- 「夫婦で協力」については、設問3（家事分担の理想）では28.9%ですが、設問4（実際の家事分担）では15.2%と大きな隔たりがあります。

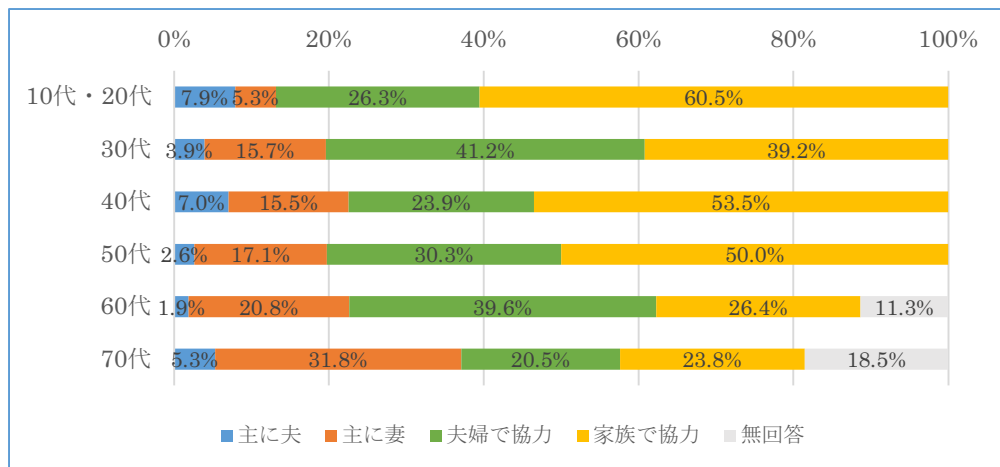
設問3

④ 食事の後片付け

項目	回答数
主に夫	23
主に妻	115
夫婦で協力し合う	165
家族で協力し合う	197
無回答	46
合計	546



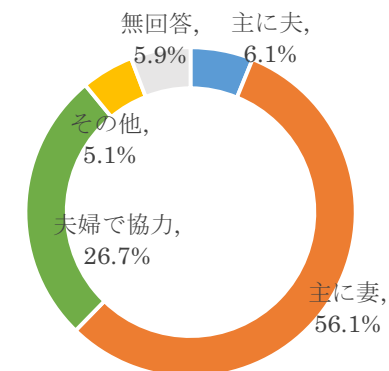
○ 年代による比較



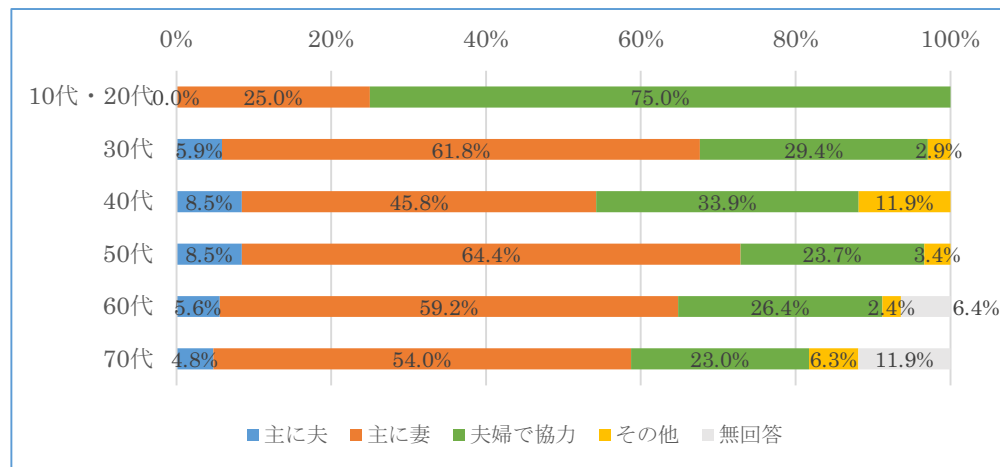
設問4

④ 食事の後片付け

項目	回答数
主に夫	25
主に妻	229
夫婦で協力し合う	109
その他 (必要が無い、他の家族がやっているなど)	21
無回答	24
合計	408



○ 年代による比較

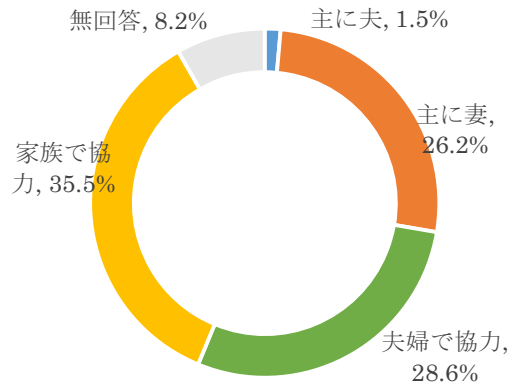


○ 『④食事の片付け』について、設問3（家事分担の理想）では、「主に妻」「夫婦で協力」「家族で協力」の各項目が、それぞれ概ね3分の1ずつとなっていますが、設問4（実際の家事分担）では、「主に妻」が約5割を占めています。

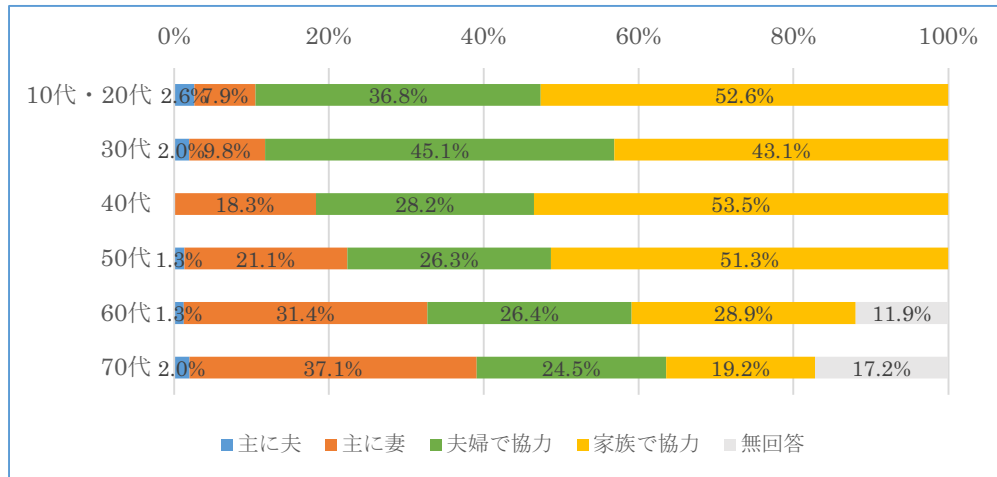
設問3

⑤ 掃除（主に家中）

項目	回答数
主に夫	8
主に妻	143
夫婦で協力し合う	156
家族で協力し合う	194
無回答	45
合計	546



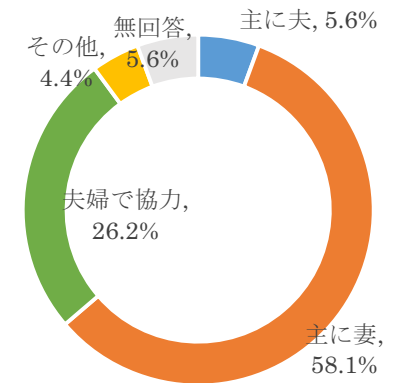
○ 年代による比較



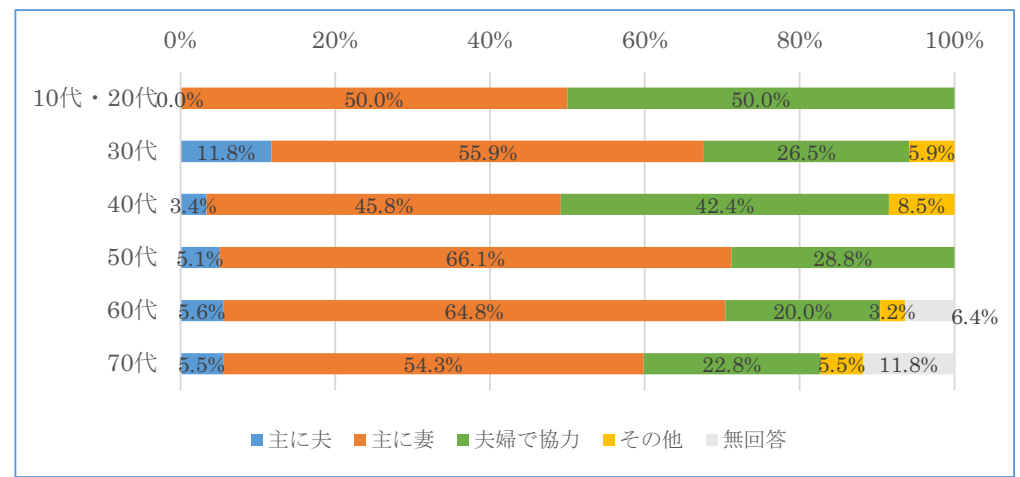
設問4

⑤ 掃除（主に家中）

項目	回答数
主に夫	23
主に妻	237
夫婦で協力し合う	107
その他（必要が無い、他の家族がやっているなど）	18
無回答	23
合計	408



○ 年代による比較



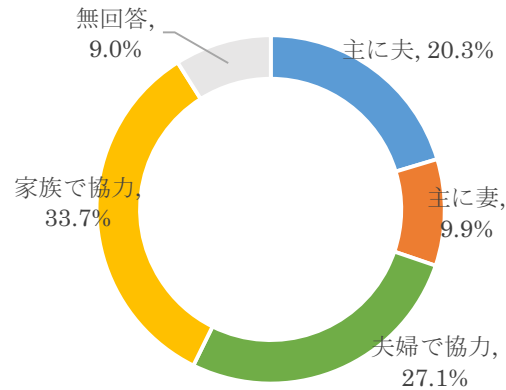
○ 『⑤掃除（主に家中）』について、設問3（家事分担の理想）では、「主に妻」「夫婦で協力」「家族で協力」の各項目が、それぞれ概ね3分の1ずつとなっていますが、設問4（実際の家事分担）では、「主に妻」が約6割を占めています。

○ 「主に妻」については、設問3（家事分担の理想）では26.2%ですが、設問4（実際の家事分担）では58.1%と約2倍となります。

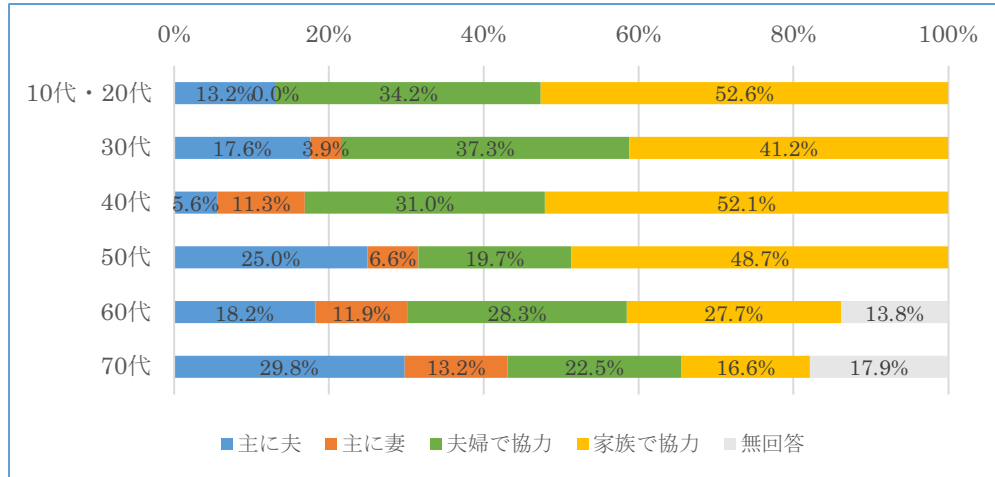
設問3

⑥ 掃除（外回り、庭など）

項目	回答数
主に夫	111
主に妻	54
夫婦で協力し合う	148
家族で協力し合う	184
無回答	49
合計	546



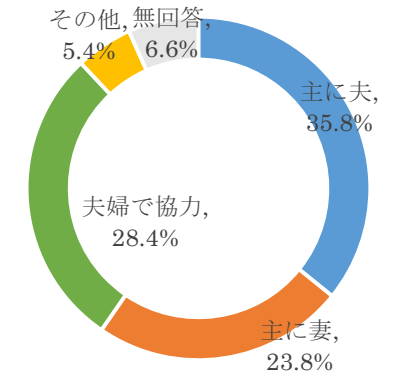
○ 年代による比較



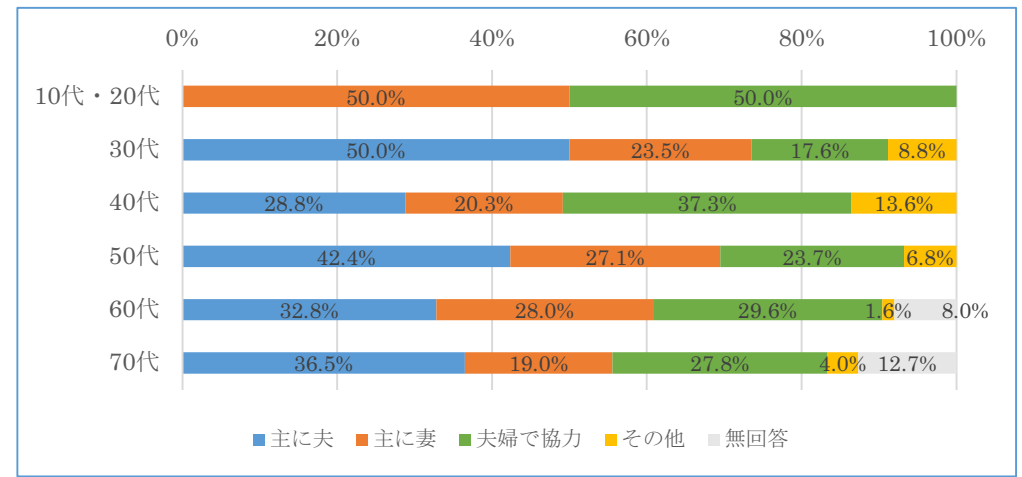
設問4

⑥ 掃除（外回り、庭など）

項目	回答数
主に夫	146
主に妻	97
夫婦で協力し合う	116
その他（必要が無い、他の家族がやっているなど）	22
無回答	27
合計	408



○ 年代による比較

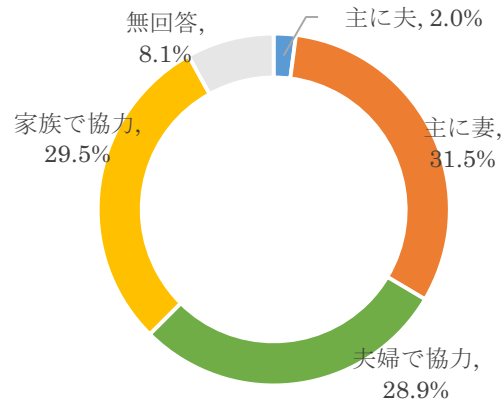


- 『⑥掃除（外回り、庭など）』について、全年代において、設問3（家事分担の理想）では「家族で協力」及び「夫婦で協力」で過半を占めていますが、設問4（実際の家事分担）では「主に夫」「主に妻」で過半となっています。
- 年代別では、設問3（家事分担の理想）では、各世代同じような傾向となっていますが、設問4（実際の家事分担）の30代では、「夫婦で協力」の割合が17.6%と他の世代と比較して低くなっています。

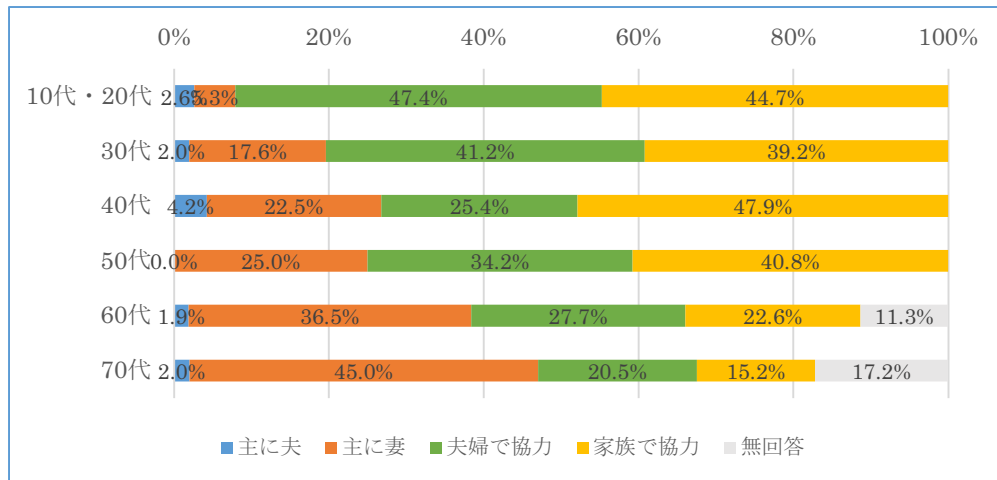
設問3

⑦ 洗濯

項目	回答数
主に夫	11
主に妻	172
夫婦で協力し合う	158
家族で協力し合う	161
無回答	44
合計	546



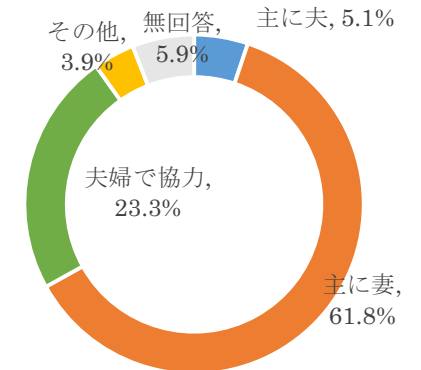
○ 年代による比較



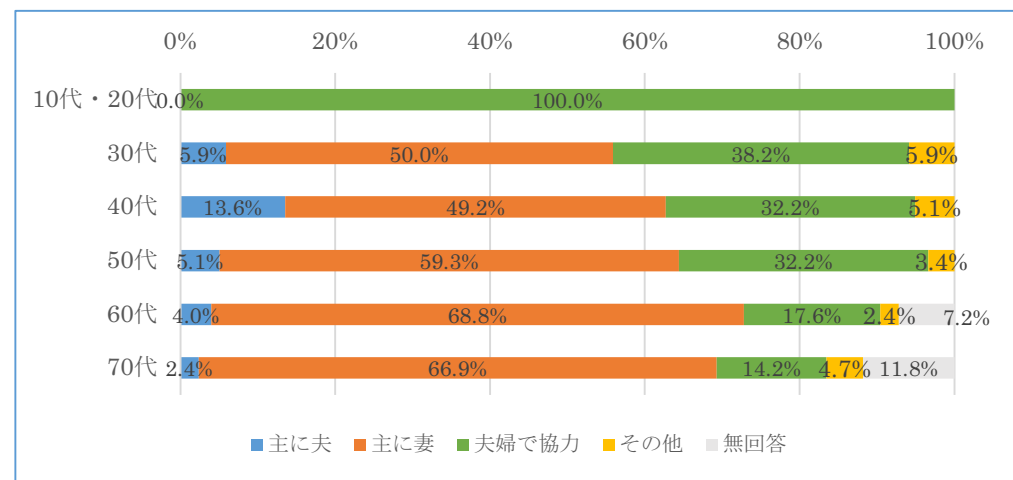
設問4

⑦ 洗濯

項目	回答数
主に夫	21
主に妻	252
夫婦で協力し合う	95
その他 (必要が無い、他の家族がやっているなど)	16
無回答	24
合計	408



○ 年代による比較



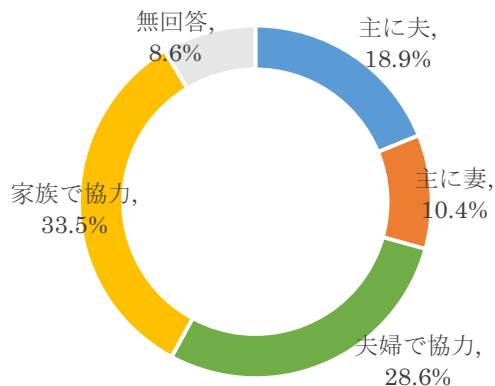
○ 『⑦洗濯』について、設問3（家事分担の理想）では、「主に妻」「夫婦で協力」「家族で協力」の各項目が、それぞれ概ね3分の1ずつを占めていますが、設問4（実際の家事分担）では、「主に妻」が約6割を占めています。

○ 年代別では、両設問とも、年代が高くなるにつれて「主に妻」の割合が増加し、「夫婦で協力」または「家族で協力」の割合が減少しています。

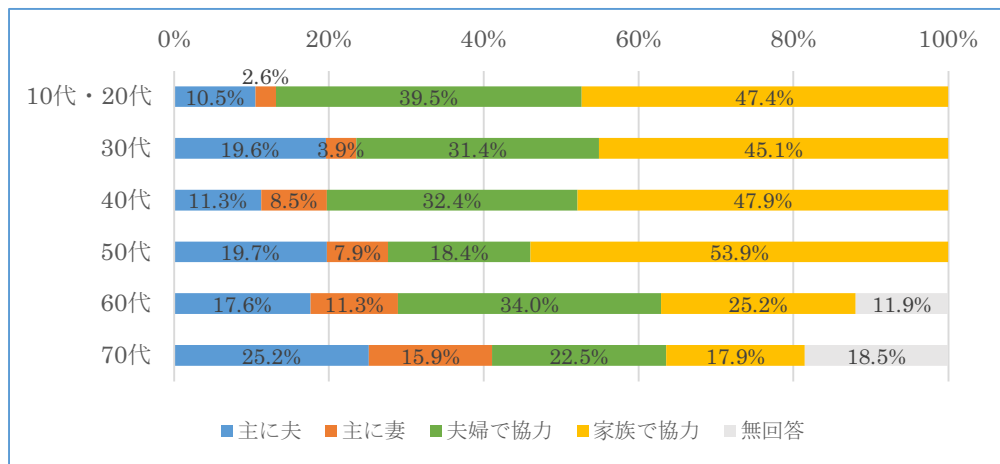
設問3

⑧ ごみ出し

項目	回答数
主に夫	103
主に妻	57
夫婦で協力し合う	156
家族で協力し合う	183
無回答	47
合計	546



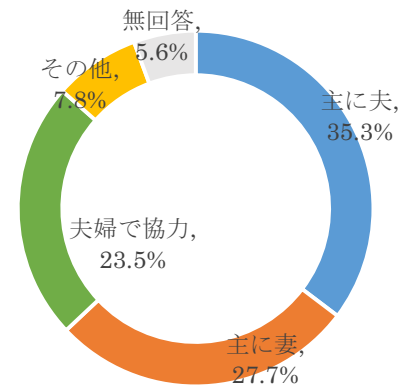
○ 年代による比較



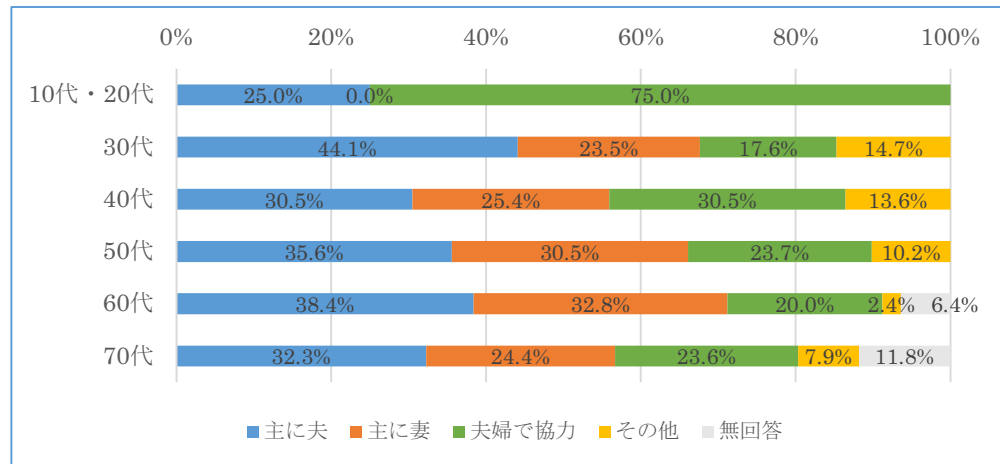
設問4

⑧ ごみ出し

項目	回答数
主に夫	144
主に妻	113
夫婦で協力し合う	96
その他 (必要が無い、他の家族がやっているなど)	32
無回答	23
合計	408



○ 年代による比較



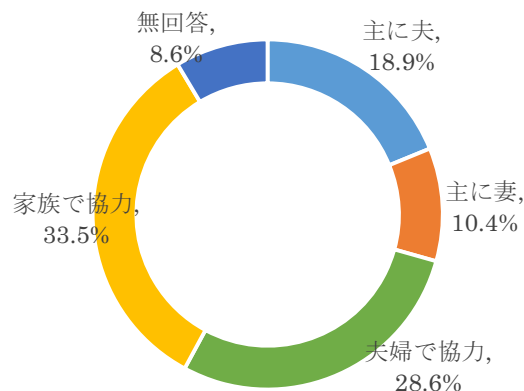
○ 『⑧ごみ出し』について、設問3（家事分担の理想）では「夫婦で協力」及び「家族で協力」で過半を占めていますが、設問4（実際の家事分担）では主に夫が3割、夫婦で協力が2割となっており、ごみ出しについては5割の夫が何らかの役割を担っていると言えます。

○ 年代別では、割合に多少の差があるものの、各年代とも同じような傾向となっています。

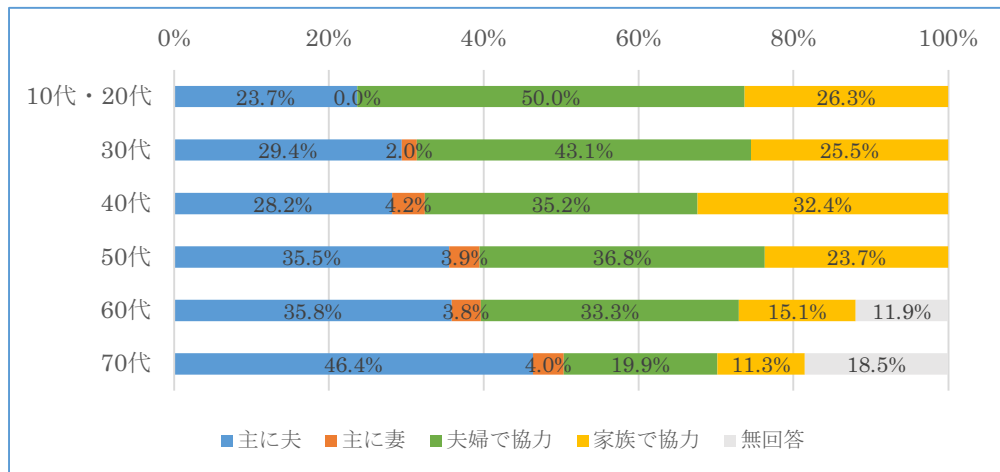
設問3

⑨ 住宅や自家用車などの維持管理

項目	回答数
主に夫	103
主に妻	57
夫婦で協力し合う	156
家族で協力し合う	183
無回答	47
合計	546



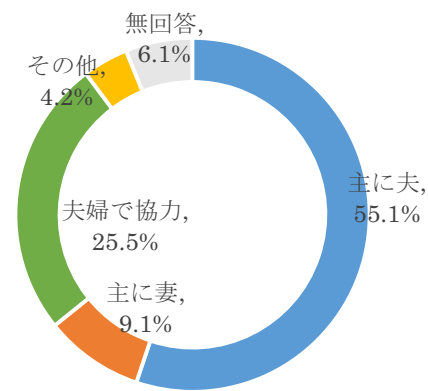
○ 年代による比較



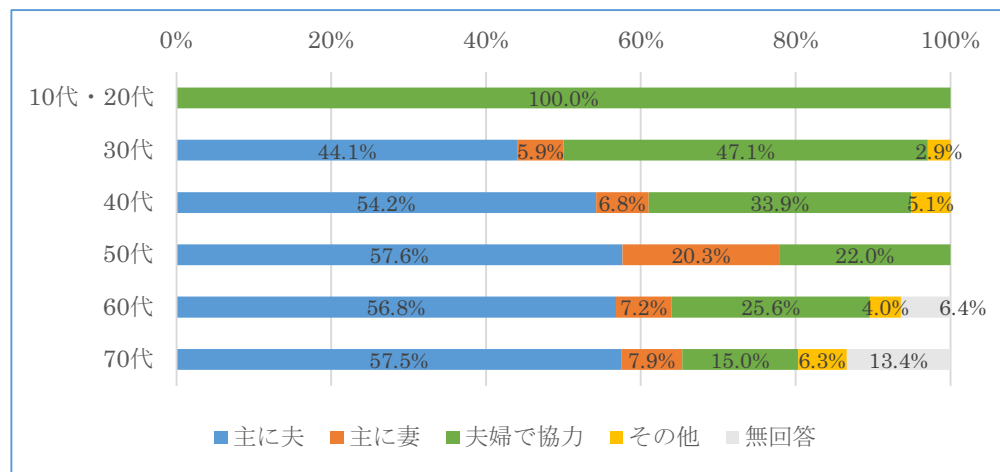
設問4

⑨ 住宅や自家用車などの維持管理

項目	回答数
主に夫	225
主に妻	37
夫婦で協力し合う	104
その他(必要な、他の家族がやっているなど)	17
無回答	25
合計	408



○ 年代による比較



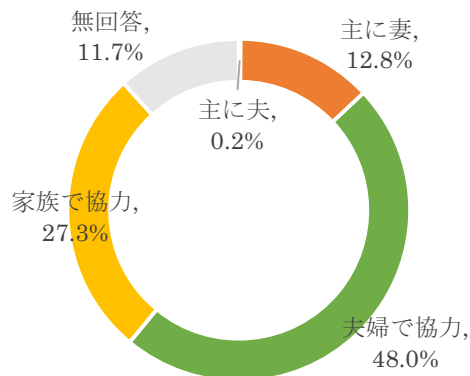
○ 『⑨住宅や自家用車などの維持管理』について、設問3（家事分担の理想）では「主に夫」との回答が18.9%ですが、設問4（実際の家事分担）では5割を超えています。

○ 年代別では、設問3（家事分担の理想）、設問4（実際の家事分担）とも、50代以上で「主に夫」の割合が高くなっています。

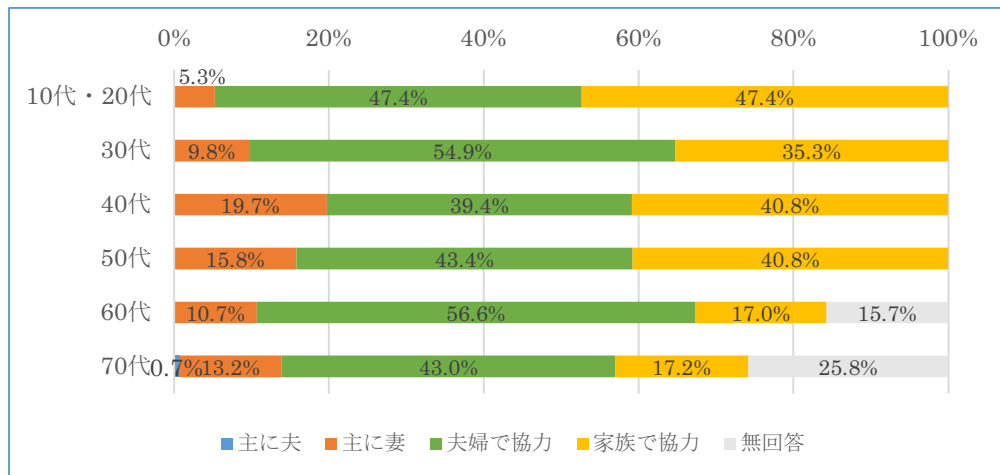
設問3

⑩ 子どもの世話

項目	回答数
主に夫	1
主に妻	70
夫婦で協力し合う	262
家族で協力し合う	149
無回答	64
合計	546



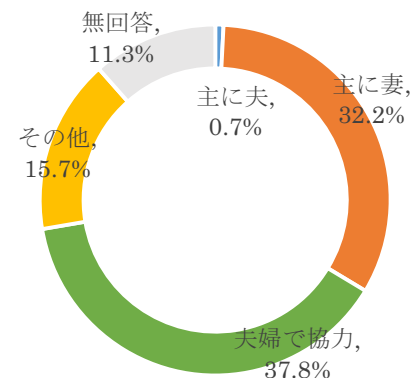
○ 年代による比較



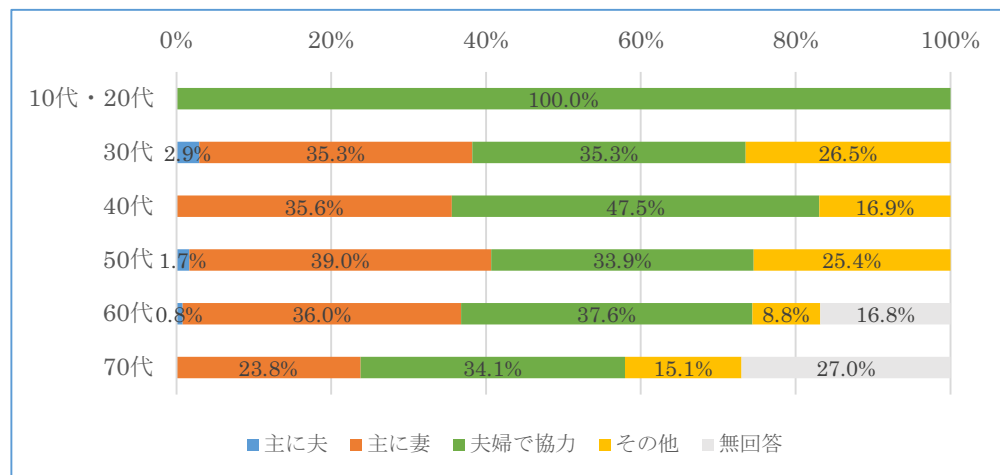
設問4

⑩ 子どもの世話

項目	回答数
主に夫	3
主に妻	131
夫婦で協力し合う	154
その他 (必要な、他の家族がやっているなど)	64
無回答	56
合計	408



○ 年代による比較



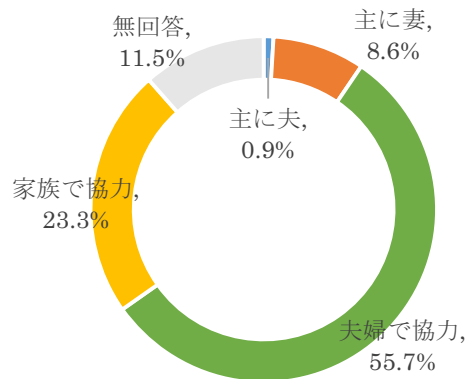
○ 『⑩子どもの世話』について、設問3（家事分担の理想）では「夫婦で協力」が最も高く48.0%、次いで「家族で協力」が27.3%となり、全体の7割を占めていますが、設問4（実際の家事分担）では「夫婦で協力」が37.8%に減少し、「主に妻」が32.2%となっています。

○ 年代別では、設問3（家事分担の理想）では、割合に多少の差があるものの、各年代とも同じような傾向となっています。

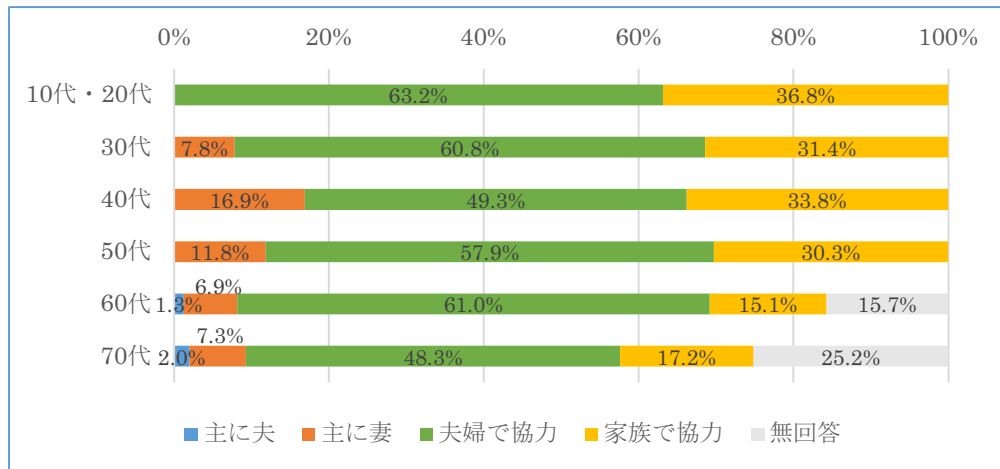
設問3

⑪ 子どもの教育

項目	回答数
主に夫	5
主に妻	47
夫婦で協力し合う	304
家族で協力し合う	127
無回答	63
合計	546



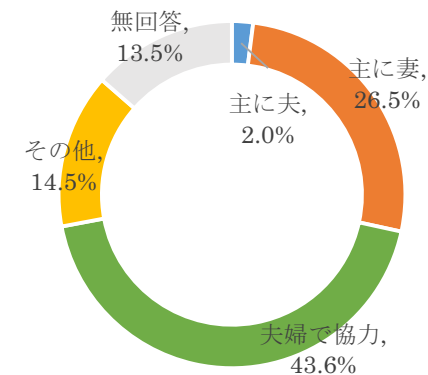
○ 年代による比較



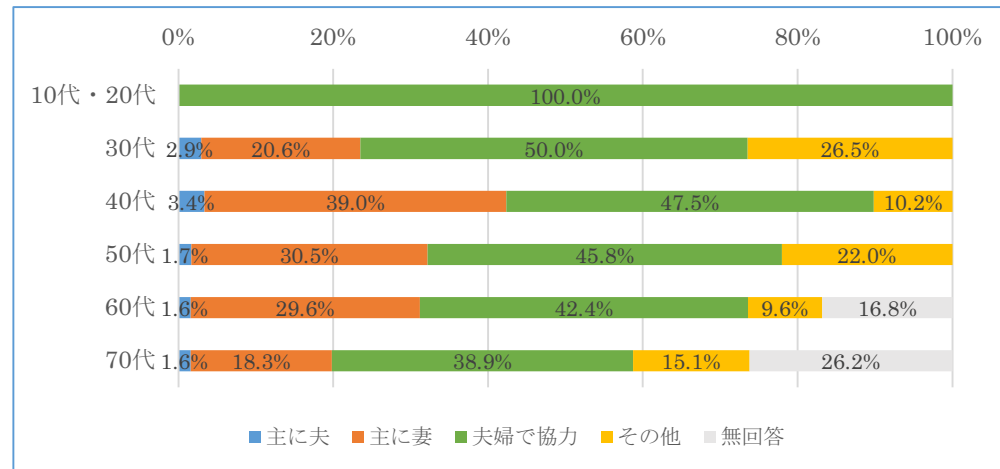
設問4

⑪ 子どもの教育

項目	回答数
主に夫	8
主に妻	108
夫婦で協力し合う	178
その他 (必要が無い、他の家族がやっているなど)	59
無回答	55
合計	408



○ 年代による比較

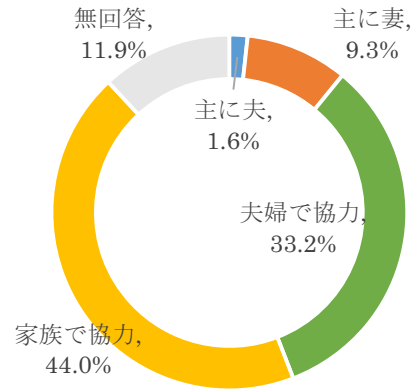


- 『⑪子どもの教育』について、設問3（家事分担の理想）では「夫婦で協力」が全体の5割を超えていますが、設問4（実際の家事分担）では「夫婦で協力」が43.6%に減少し、「主に妻」が26.5%となっています。
- 年代別では、設問3（家事分担の理想）では、各年代とも同じような傾向が見られますが、設問4（実施の家事分担）では、年代が上がるにつれて、「夫婦で協力」が減少しています。

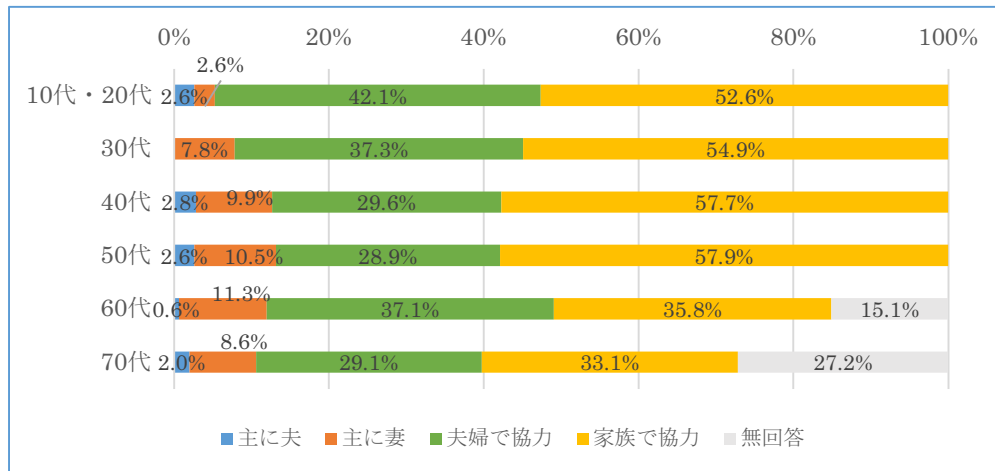
設問 3

⑫ 病人の世話や高齢者の介護

項目	回答数
主に夫	9
主に妻	51
夫婦で協力し合う	181
家族で協力し合う	240
無回答	65
合計	546



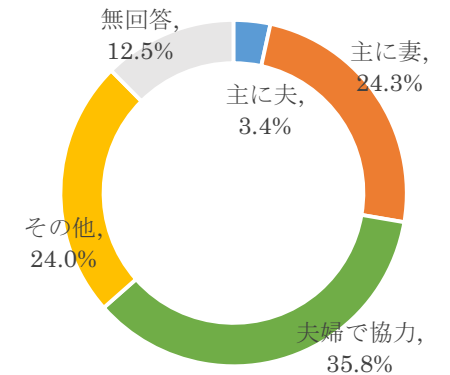
○ 年代による比較



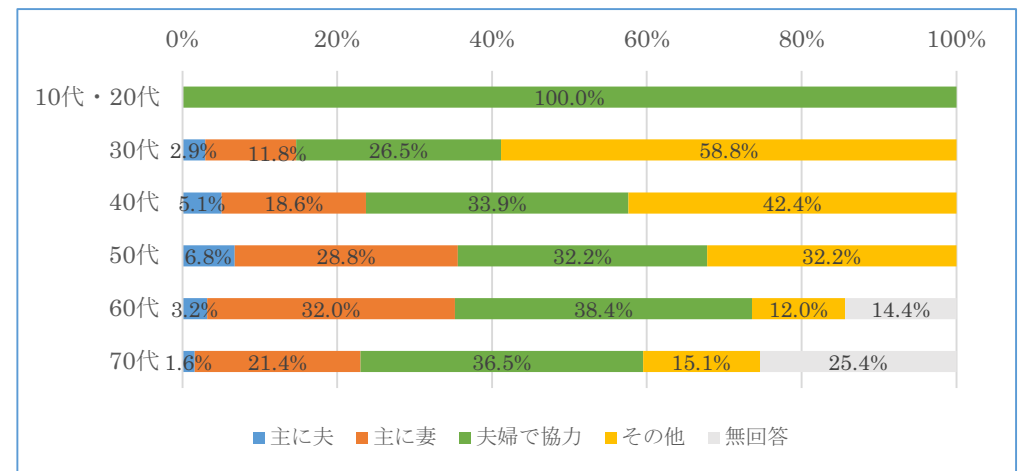
設問 4

⑫ 病人の世話や高齢者の介護

項目	回答数
主に夫	14
主に妻	99
夫婦で協力し合う	146
その他 (必要が無い、他の家族がやっているなど)	98
無回答	51
合計	408



○ 年代による比較



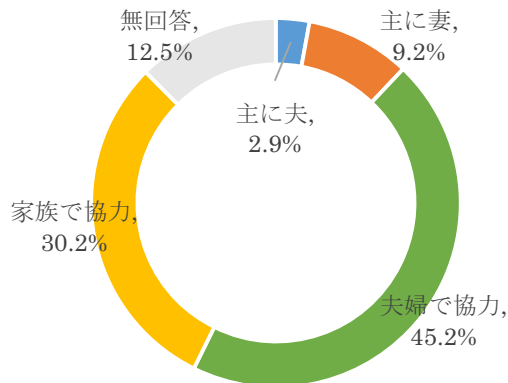
○ 『⑫病人の世話や高齢者の介護』について、設問 3 (家事分担の理想) では、「家族で協力」の割合が最も高く 44.0%、次いで「夫婦で協力」が 33.2%となっており、協力して行う割合が 77.2%となっていますが、設問 4 (実際の家事分担) では、「夫婦で協力」が 35.8%、次に「主に妻」 24.3%となっています。

○ 年代別では、設問 3 (家事分担の理想) では、各世代同じような傾向となっていますが、設問 4 (実際の家事分担) の 30 代では、「夫婦で協力」する割合が 26.5%と他の世代に比べて低くなっています。

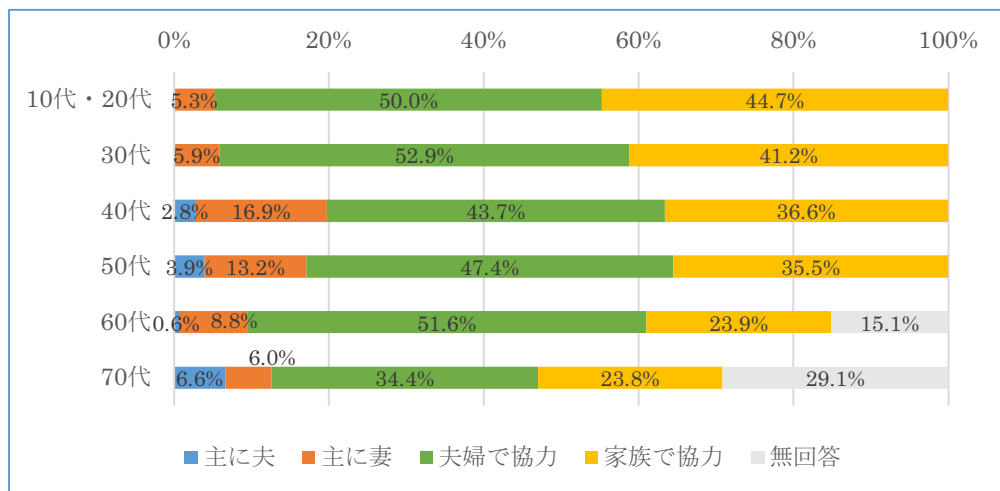
設問 3

⑬ 学校や保育園の送迎

項目	回答数
主に夫	16
主に妻	50
夫婦で協力し合う	247
家族で協力し合う	165
無回答	68
合計	546



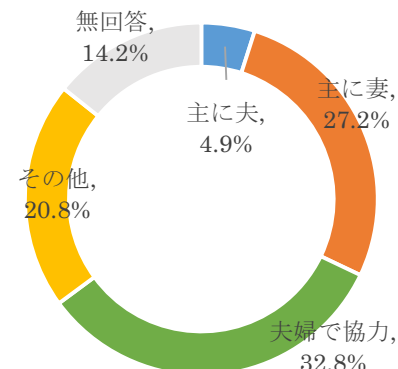
○ 年代による比較



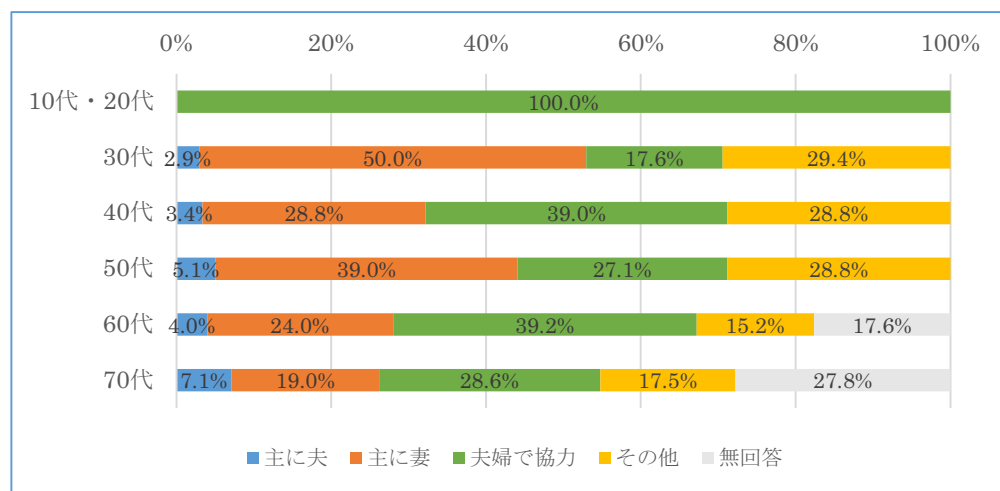
設問 4

⑬ 学校や保育園の送迎

項目	回答数
主に夫	20
主に妻	111
夫婦で協力し合う	134
その他 (必要が無い、他の家族がやっているなど)	85
無回答	58
合計	408



○ 年代による比較



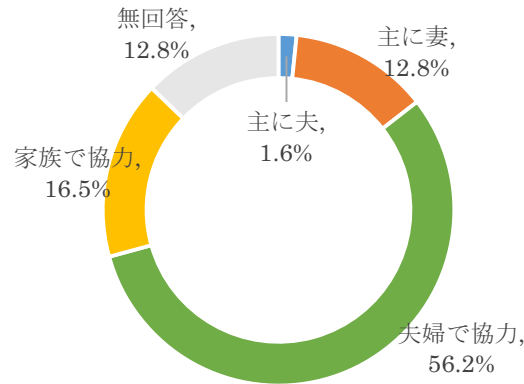
○ 『⑬学校や保育園の送迎』について、設問 3（家事分担の理想）では、「夫婦で協力」が 45.2%、「家族で協力」が 30.2%で、全体の 75.4% を占めていますが、設問 4（実際の家事分担）では、「夫婦で協力」が 32.8%、次に「主に妻」27.2%となっています。

○ 年代別に見ると、設問 3（家事分担の理想）では、各世代同じような傾向となっていますが、設問 4（実際の家事分担）の 30代では「夫婦で協力」する割合が 17.6%と他の世代に比べて低くなっています。

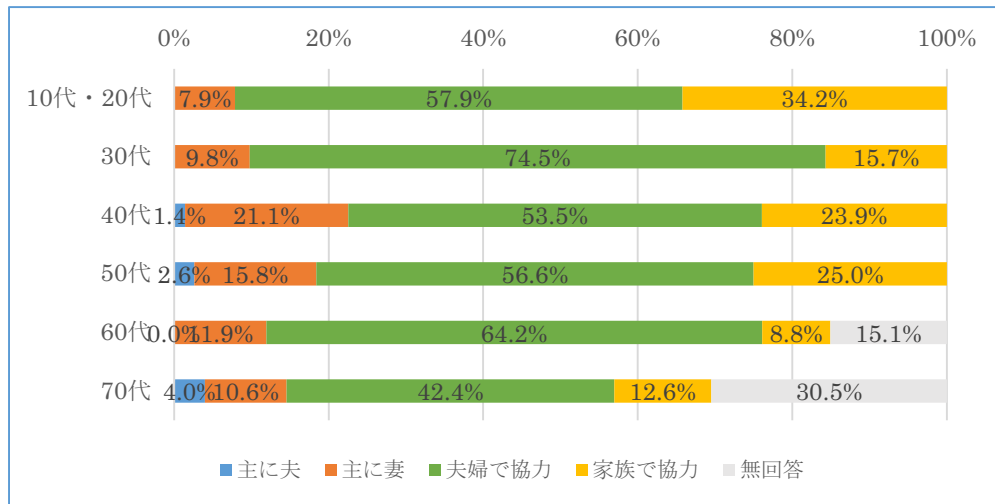
設問3

⑭ 授業参観などの学校行事

項目	回答数
主に夫	9
主に妻	70
夫婦で協力し合う	307
家族で協力し合う	90
無回答	70
合計	546



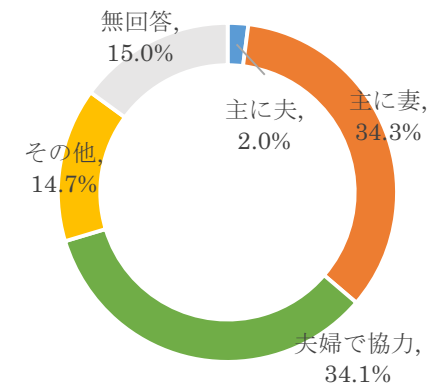
○ 年代による比較



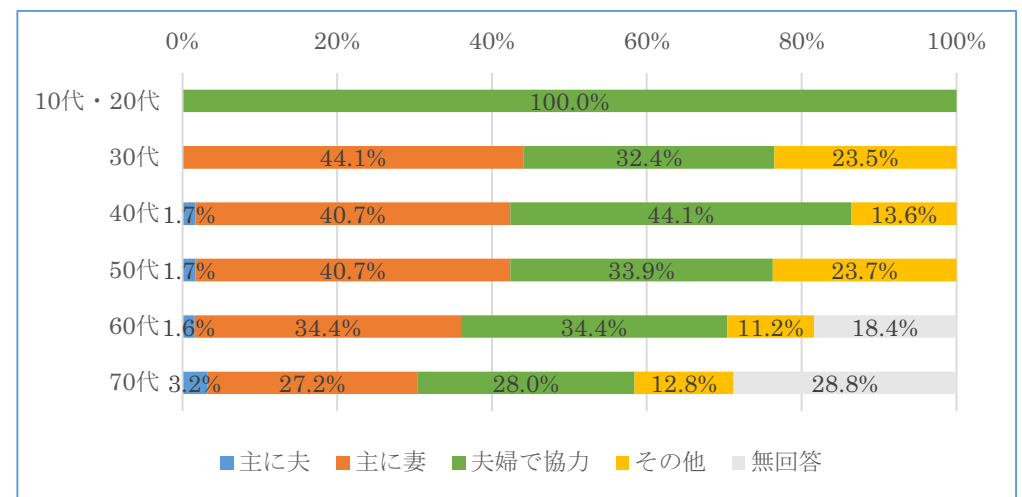
設問4

⑭ 授業参観などの学校行事

項目	回答数
主に夫	8
主に妻	140
夫婦で協力し合う	139
その他 (必要が無い、他の家族がやっているなど)	60
無回答	61
合計	408



○ 年代による比較

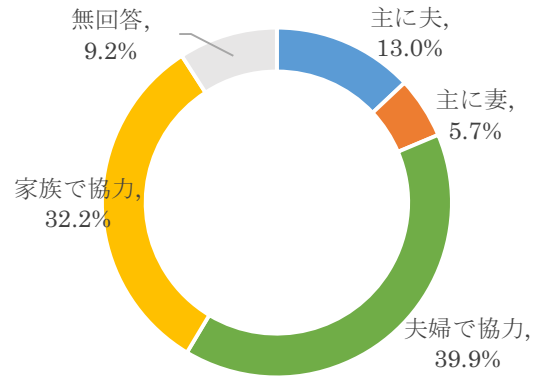


○ 『⑭授業参観などの学校行事』について、設問3（家事分担の理想）では、「夫婦で協力」が56.2%を占め、他の項目を大きく上回っていますが、設問4（実際の家事分担）では、「夫婦で協力」が34.1%に減少し、「主に妻」が34.3%となっています。

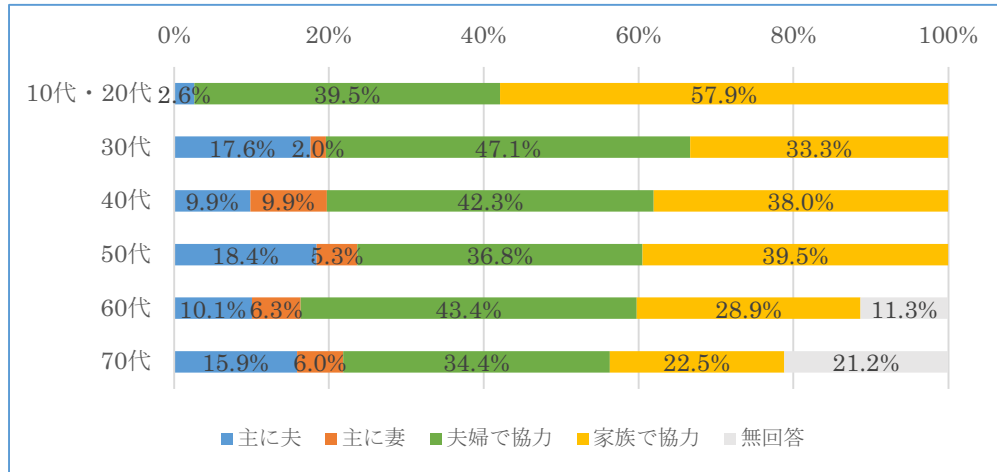
設問3

⑮ 地域活動

項目	回答数
主に夫	71
主に妻	31
夫婦で協力し合う	218
家族で協力し合う	176
無回答	50
合計	546



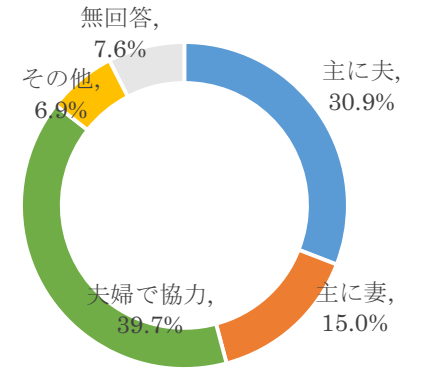
○ 年代による比較



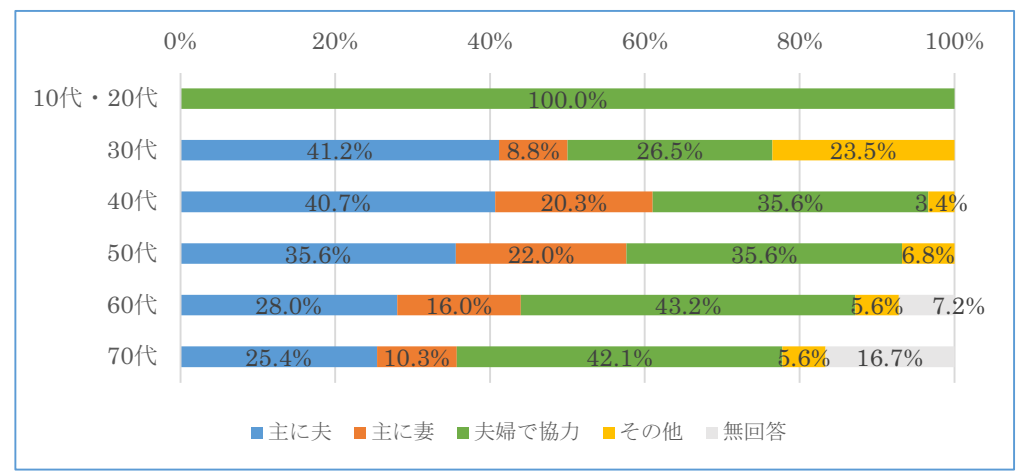
設問4

⑮ 地域活動

項目	回答数
主に夫	126
主に妻	61
夫婦で協力し合う	162
その他 (必要が無い、他の家族がやっているなど)	28
無回答	31
合計	408



○ 年代による比較

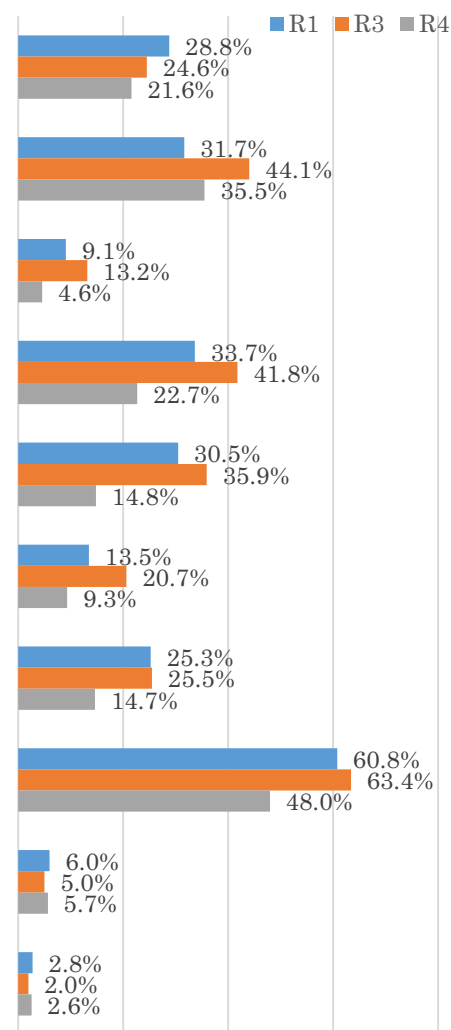


○ 『⑮地域活動』では、設問3（家事分担の理想）では、「夫婦で協力」が39.9%、「家族で協力」が32.2%で、全体の72.1%を占めていますが、設問4（実際の家事分担）では、「夫婦で協力」が39.9%、「主に夫」が30.9%となっています。

○ 年代別では、設問3（家事分担の理想）では、各年代とも同じような傾向となっていますが、設問4（実際の家事分担）の10代・20代では、「夫婦で協力」が100.0%と他の年代に比べて極めて高くなっています。

設問 5 あなたは、「男女共同参画社会」を築いていくために、どのようなことが重要だと思いますか。（あてはまるもの3つまで選択）

選択肢	回答数	割合
男女同等に知識や技術などを取得する	118	21.6%
法律や制度、意識の面での見直しを行い、男女差別につながる社会環境を改める	194	35.5%
男女共同参画に関する情報提供や相談窓口の充実を図る	25	4.6%
子どもの時から男女平等教育を徹底させる	124	22.7%
働く場での男女格差をなくすよう、企業などへ意識啓発を行う	81	14.8%
政策・方針決定の場に女性を積極的に登用する	51	9.3%
企業や行政が仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を積極的に進める	80	14.7%
男女が共に働きながら、家事や子育て・介護などを両立できるような支援・サービスを充実させる	262	48.0%
広報紙などで男女平等や相互理解・協力についてPRする	31	5.7%
その他	14	2.6%



n=546

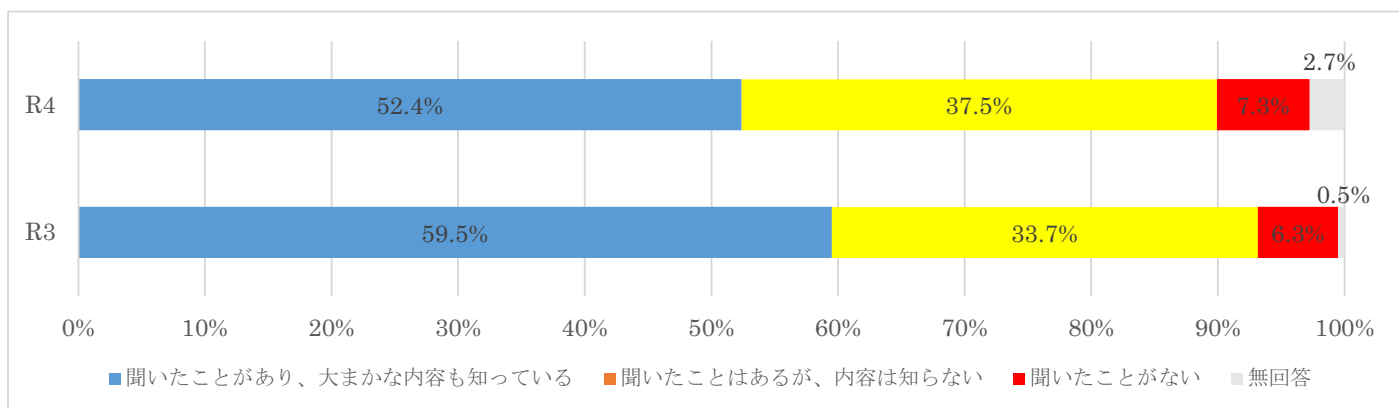
❖ その他の内容（抜粋）

- ・ 時間が解決すると思う。学校教育の場では男女の区別なく扱われているため、世代による認識に差が出ていると感じる。
- ・ 同性格差が男女格差にもつながると思うので、幅広い女性層の意見を取り入れる手段を講じるべき。
- ・ 地域の小さなコミュニティ（婦人会やサロンなど）で意識を高めるための研修や教育を行う
- ・ 男女関係なく、人を尊重する豊かな心をはぐくむ教育で人を育てる。そのため教育関係者のスキルアップが必要。

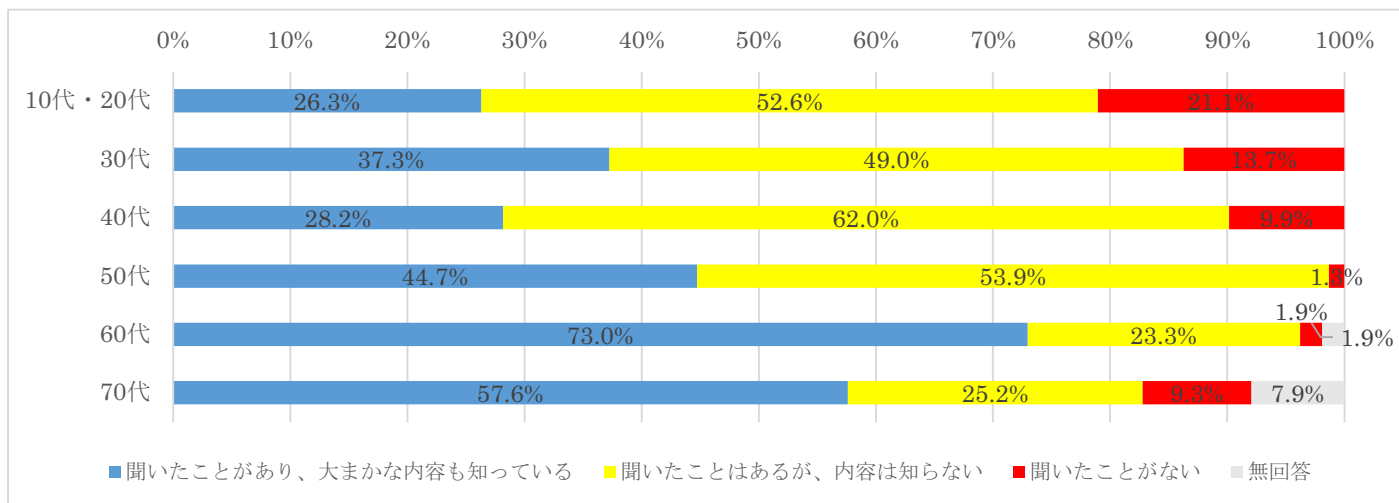
○ 前回調査と同じ傾向となっており、「男女が共に働きながら、家事や子育て・介護などを両立できるような支援・サービスを充実させる」が最も多く、次いで、「法律や制度、意識の面での見直しを行い、男女差別につながる社会環境を改める」「子どもの時から男女平等教育を徹底させる」が多くなっています。

設問 6 「配偶者暴力防止法」「DV防止法」（配偶者からの暴力及び被害者の保護に関する法律）について、あてはまるものをお選びください。

選択肢	回答数	割合
聞いたことがあり、大まかな内容も知っている	286	52.4%
聞いたことはあるが、内容は知らない	205	37.5%
聞いたことがない	40	7.3%
無回答	15	2.7%
計	546	100%



○ 年代による比較

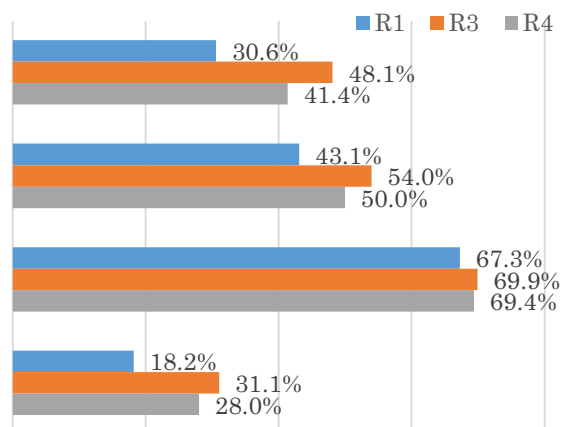


○ 「聞いたことがあり、大まかな内容も知っている」の割合が 52.4%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が 37.5%であり、DV 防止法の名称または内容を知っている人の割合は、89.9%となっています。

○ 年代別では、60 代の「聞いたことがあり、大まかな内容を知っている」人の割合は、10 代・20 代の約 3 倍となっています。

設問7 DV（ドメスティック・バイオレンス：配偶者やパートナーに対する身体的・心理的・経済的・性的暴力、社会的隔離）を防止するためにどのような支援があるか、知っているものをお選びください。（あてはまるものすべて選択）

選択肢	回答数	割合
被害者支援の関連法律（配偶者暴力防止法）がある	226	41.4%
人権相談窓口がある	273	50.0%
警察で相談、保護を行っている	379	69.4%
配偶者暴力相談支援センターがある	153	28.0%

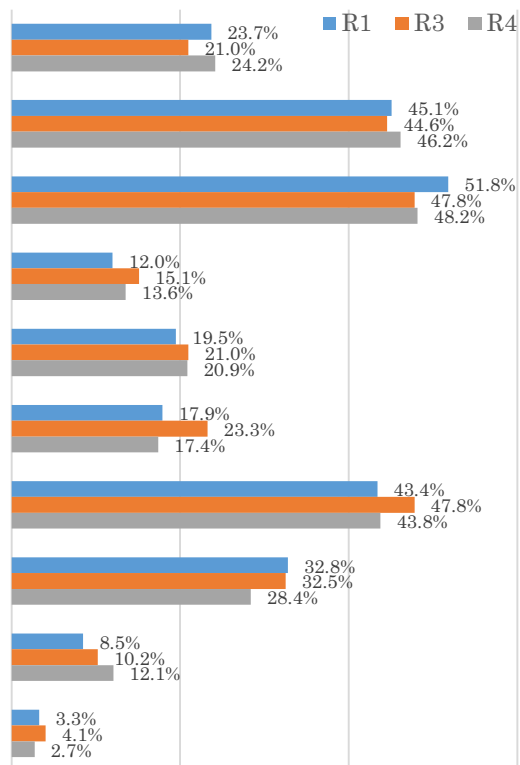


n = 546

○ 前回調査と同じ傾向となっており、「警察で相談保護を行っている」が最も多く、次いで、「人権相談窓口がある。」「被害者支援の関連法律がある」が続いています。

設問8 児童虐待を防止するために、どのような取り組みを進めることが必要だと思いますか。特に重要だと思うものをお選びください。（あてはまるもの3つまで選択）

選択肢	回答数	割合
児童相談所や配偶者暴力相談支援センターなど関係機関の職員を増やす	132	24.2%
児童相談所や配偶者暴力相談支援センターなどの関係機関による迅速な介入や家庭訪問を増やす	252	46.2%
児童相談所や配偶者暴力相談支援センター、警察、行政など関係機関の連携を強化する	263	48.2%
地域の役員（民生委員・児童委員など）に声掛けをお願いする	74	13.6%
地域全体で子どもや保護者に積極的にあいさつなどの声かけをする	114	20.9%
地域全体で住民相互の関わりを深める取り組みを行う	95	17.4%
保育園・幼稚園・こども園、学校、医療機関などによる早期発見を徹底する	239	43.8%
「虐待の疑いがあれば通報する」という意識を持つ	155	28.4%
虐待防止の啓発活動を積極的に行う	66	12.1%
その他	15	2.7%

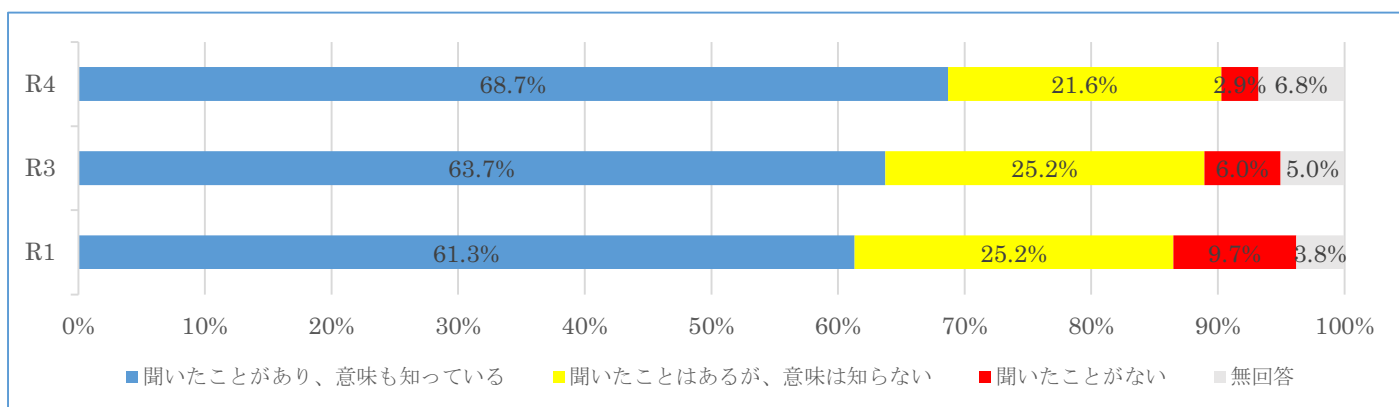


n = 546

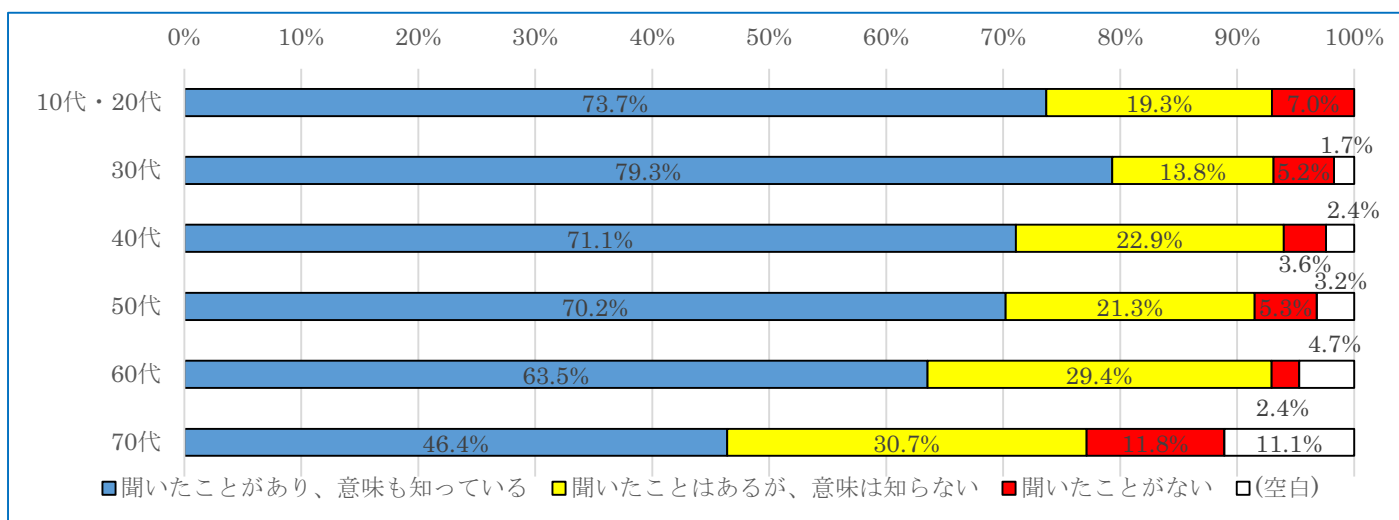
○ 前回調査と同じ傾向となっており、「児童相談所や配偶者暴力相談支援センターなどの関係機関による迅速な介入や家庭訪問を増やす」「児童相談所や配偶者暴力相談支援センター、警察、行政など関係機関の連携を強化する」「保育園・幼稚園・こども園、学校、医療機関などによる早期発見を徹底する」が多くなっています。

設問 9 LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー）、性的マイノリティ（同性が好きな人や、自分の性に違和感を覚える人、性同一性障害の人など）に関することについてうかがいます。近年、多様な性への無理解が社会的に課題となっており、多様な性への理解と配慮が求められております。「LGBT」「性的マイノリティ」という用語について、あてはまるものをお選びください。（1つ選択）

選択肢	回答数	割合
聞いたことがあります、意味も知っている	375	68.7%
聞いたことはあるが、意味は知らない	118	21.6%
聞いたことがない	16	2.9%
無回答	37	6.8%
計	546	100%

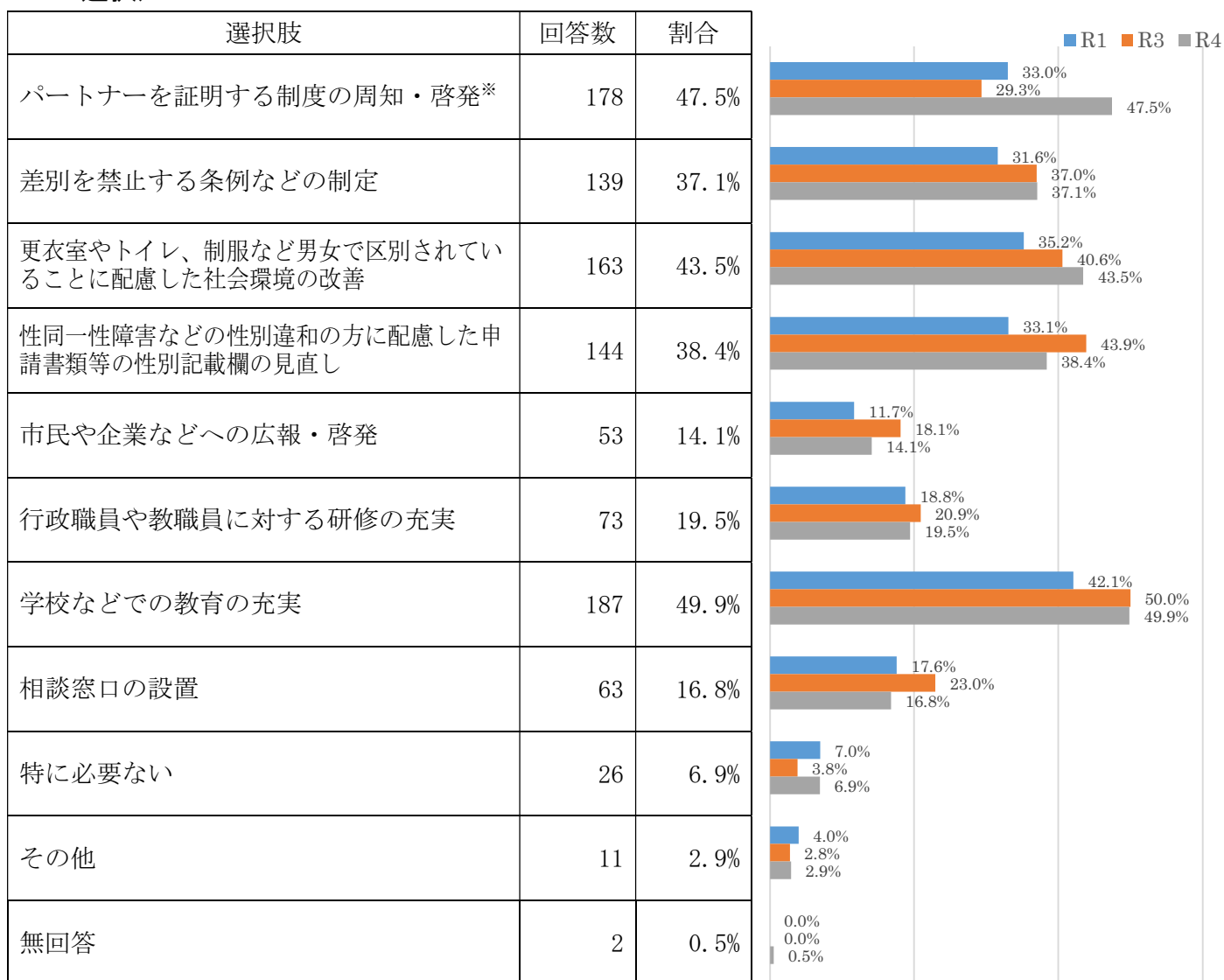


○ 年代による比較



- 「聞いたことがあります、意味も知っている」の割合が 68.7%であり、前回調査 63.7%から 5.0ポイント増加しています。
- 年代別では、年代が高くなるとともに、「聞いたことがあります、意味も知っている」の割合が減少しています。

設問 10 設問 9 で「1. 聞いたことがあり、意味も知っている」と答えた方にお聞きします。今後、多様な性への理解を進めるために何が重要だと思いますか。(あてはまるもの3つまで選択)



n = 375

※ R3 までは、「パートナーを証明する制度の整備」と質問

❖ その他の内容（抜粋）

- ・ LGBT を受け入れる事が大切。当人にどうして欲しいか聞いて意見を積極的に取り入れるべき。社会全体の認識が高まりお互いがお互いを受け入れることが理想だと私は思っている。
- ・ 教育や環境で刷り込みがあるのでそれを緩和する考え方の啓蒙と、愛をテーマに結びつく意味を伝えていく。
- ・ どんな人もお互いに尊重する豊かな子を育てる。「学校で」とか、「家庭で」とか、「社会で」とか分けるのではなく、一人ひとりが自分を見つめ、自分育てができるように真の豊かさを提示できる社会を作る。

○ 前回調査と同じ傾向となっており、「学校などでの教育の充実」が最も多く、次いで「パートナーを証明する制度の周知・啓発」「更衣室やトイレ、制服など男女で区別されていることに配慮した社会環境の改善」が続いています。